

広島平和の親子バスツアー 感想文集



令和5年8月26日(土)~27日(日)

加古川市

はじめに

広島と長崎で起こった核兵器による惨事が再び繰り返されないことを願い、加古川市内の各種団体の皆さまとともに昭和38年から活動を続けてきた原水爆禁止加古川市協議会が、本年3月をもって活動を終えました。加古川市は、協議会の意志を引継ぎ、核兵器のない平和な世界が訪れることを願い、その願いを次代へと引き継いでいくため、様々な平和祈念事業を行っています。

中でも「広島平和の親子バスツアー」は、協議会の主要事業として平成3年から毎年実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によりやむを得ず3年間中止となっていたところ、本年は無事再開することができました。

参加者の皆さんは、ツアーでの2日間で広島平和記念資料館の見学や、実際に被爆を体験された「かたりべ」の方の貴重な講話の聴講などを行いました。日々の生活の中で気づけなかった平和の大切さ、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを感じ、親子で平和について考える機会となったと思います。

被爆から78年が経過し、戦争や被爆の体験を若い世代へ継承していくことが求められている今、このような平和学習は大変重要な役割を担っています。

このたび、参加者の皆さんによる感想文を、文集として冊子にまとめました。この文集が、平和の尊さと大切さを考える資料として、ご家庭や学校において、また地域社会の活動の場において活用されますことを願っています。

令和5年10月

加古川市長 岡田康裕

広島平和の親子バスツアー

2日間の思い出を写真集にしました

8月26日(土) 平和公園を散策

行きのバスの中で、戦争をテーマにしたビデオやガイドの方の説明を受けて、広島市に入りました。



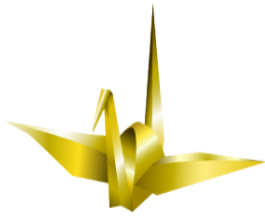
相生橋

橋の中央部分から慈仙寺の鼻（現在の平和記念公園北端部）へ橋げたを伸ばした全国でも珍しいT字型で、原爆投下はこの橋が目標にされたといわれています。



平和の灯(ともしび)

世界から核兵器がなくなりますように…



原爆ドームをバックに記念撮影

～1号車～

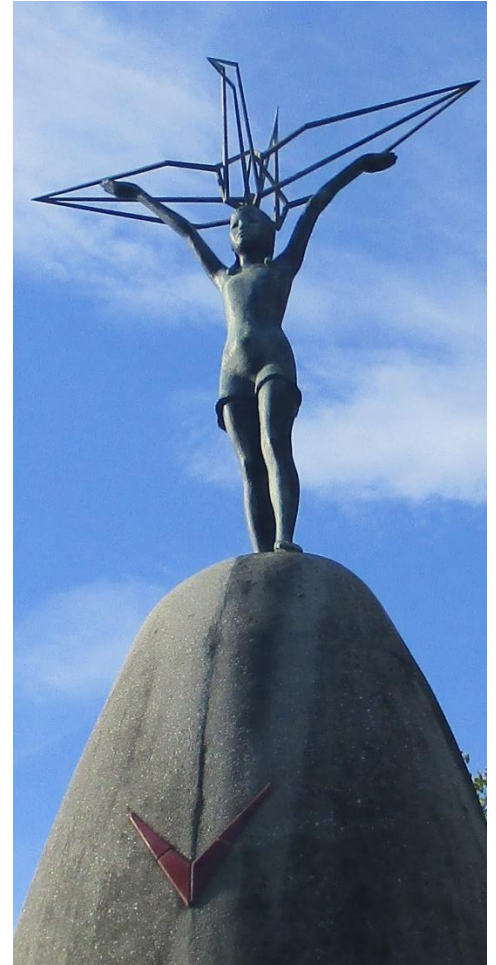


～2号車～



原爆の子の像

2歳の時被爆し、10年後に白血病を発病して亡くなった佐々木禎子さん。その死に衝撃を受けた同級生たちが、「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と全国へ呼びかけ、全国3,100校余りの生徒と、イギリスをはじめ世界9か国からの支援により、完成したのが、高さ9メートルのこのブロンズ像です。



原爆死没者慰霊碑

安らかに眠ってください

過ちは繰返しませぬから

原爆犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちから、屋根の部分がはにわの家型をしています。中央の石室には、国内外を問わず、亡くなった原爆被爆者の名前を記帳した原爆死没者名簿が納められています。名簿は関係者の申し出により書き加えられ、2023年（令和5）年8月6日奉納時において、125冊（339,227人）になっています。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

モニュメントは、原爆が投下された8時15分を表しています。

原爆で亡くなった一人一人の存在を実感しました。



平和記念資料館にて



地球平和監視時計(PEACE WATCH)

正面玄関横に時計がありました。

「広島への原爆投下からの日数」(上段)

28509日

「地球上で最後に核実験が行われてからの日数」(下段)

709日

2023年8月26日現在、2021年9月16日にアメリカ合衆国が実施した臨界前核実験からの日数が表示されています。



しんちゃんの三輪車

鉄谷信男さんの長男、伸一ちゃん（当時3歳11か月）は、東白島町の自宅前で、三輪車に乗って遊んでいるときに被爆しました。

全身に火傷を負い、「水、水……」とうめきながらその夜、亡くなりました。

弁当箱

遺体に抱えられた真っ黒に焼けたお弁当箱と水筒を発見しました。その日のお弁当の中身は、その畑から初めて収穫した作物でつくったおかずで、喜んで持っていたものでした。



小さな折鶴

禎子さんは鶴を折り続けました。鶴はしだいに小さくなっていきました。時には針を使って折ることもありました。

8月27日(日) 被爆体験講話

平和記念資料館地下1階にて 被爆体験者「^{かさおか}笠岡 ^{さだえ}貞江さん」の講話

高等女学校1年生であった12歳の時、爆心地から3.5km離れた自宅で被爆されました。
みんなで語り継いでいくべき、大切なお話でした。



平和記念資料館から見た平和記念公園

毎年、8月6日、原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念するため、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑)前において、原爆死没者の遺族をはじめ、市民多数の参加のもとに平和記念式典が行なわれています。原爆の投下された8時15分には平和の鐘やサイレンを鳴らして、式典会場、家庭、職場で原爆死没者の冥福と恒久平和の実現を祈り、1分間の黙とうを行っています。



広島市を離れ、呉市へ・・・

大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）の見学

広島に原爆が落とされるよりも数か月前のこと。

戦艦大和は、空からの攻撃を受け、多くの乗組員とともに海に沈みました。

日本の科学技術の発展の歴史と、悲しい戦争との間には、深い関わりがあったことを知りました。



1泊2日のバスツアーで、『平和』『原爆』『戦争』など、たくさんの学びを得て加古川へと帰ってきました。

次の頁からは参加された皆さんの感想を掲載しています。是非、家族や友達と一緒に平和について考えてみてください。

目 次

	ページ		ページ
加古川小学校	4 年 . . . 1	中部中学校	1 年 . . . 13
氷丘小学校	4 年 . . . 2	平岡中学校	1 年 . . . 14
上荘小学校	4 年 . . . 3	氷丘中学校	1 年 . . . 15
東神吉小学校	4 年 . . . 4		
志方西小学校	4 年 . . . 4	浜の宮中学校	2 年 . . . 17
氷丘南小学校	4 年 . . . 5	神吉中学校	2 年 . . . 18
東神吉南小学校	4 年 . . . 5	志方中学校	2 年 . . . 20
		陵南中学校	2 年 . . . 20
加古川小学校	5 年 . . . 6		
氷丘小学校	5 年 . . . 6	以降	
神野小学校	5 年 . . . 8	保護者36名	22 ~ 43
野口小学校	5 年 . . . 8		
尾上小学校	5 年 . . . 9		
鳩里小学校	5 年 . . . 9		
平岡北小学校	5 年 . . . 10		
尾上小学校	6 年 . . . 10		
別府小学校	6 年 . . . 11		
浜の宮小学校	6 年 . . . 12		
氷丘南小学校	6 年 . . . 12		
東神吉南小学校	6 年 . . . 13		

原爆資料館で生き証人の方の話を聞きました。その方は爆心地から三・五キロメートルの地点で被爆されたそうです。調べてみると、その地点での爆風の風速は、秒速二十から三十メートル、また、熱線の温度は三千から四千度だったようです。僕はその瞬間が全く想像ができませんでした。でもいつか成長して少しでも想像ができるようになったらいいなと思います。もし僕がその生き証人の方だったとしたら、被爆した時、僕は、何も思わないと思います。なぜ何も思わないかという、なぜこうなったかがよくわからないからです。しかし、原爆死者数が、約 14 万人という数からするとその方は、生きてるのはすごいなと思いました。しかも、放射能をあびたはずなのに、生き抜いてそして今、生きてることがすごいなと思いました。

また、展示室ではボロボロになった自転車を見てとてもすごい温度だったんだろうなと思いました。僕は、なぜ原爆でたくさんの人たちを殺さないといけないかが分かりません。原爆を海に落として自分たちは強いということをアピールすればたくさんの人たちが死ななくてもよかったです。

呉では、甲板上に出て、狙撃する人は勇気をもって狙撃したのだと思います。なぜなら、甲板に出たら相手に狙われて殺されることもあるかもしれないからです。狙撃する人はおびえながら狙撃をしていたのだと思います。ぼくは、昔、戦った人に感謝が必要だと思いました。理由は、日本を植民地にしようとする外国の人が勝手に国境を越えて入ってこないようにするために必死で戦っていたからです。

せっかく新しく生まれてきた命が一つ一つなくなっていくから戦争は嫌だと思いました。

(加古川小学校 4年)

私は初めて広島平和親子バスツアーに参加しました。行く前におじいちゃんが図書館で借りてきてくれた「さだ子の千羽鶴」を読みました。戦争の本を読んだのもこれが初めてです。バスの中では折り紙が配られて折り鶴をたくさん折りました。広島に着いてさだ子さんの像が見れました。像の前にはいろんな色の折り鶴がたくさんかざってあってきれいでした。資料館ではさだ子さんが折った折り鶴が展示されていました。針を使って折ったすごく小さな折り鶴もありました。さだ子さんは足も速くて手先も器用だったんだと分かりました。もし原爆が落ちなかったら、さだ子さんも白血病にはならずすんだのに。なにも悪いことをしていないのに、殺されてしまう戦争はすごくひどいと思います。

ほかにも資料館には真っ黒になった人ややげどをした人の写真があって、すごくこわくてちゃんと見られませんでした。

次の日には語りべのかさ岡さんの話が聞けました。12歳で原爆にあって両親が亡くなってお兄さんと弟、おばあちゃんが生き残ったそうです。もしわたしも両親がいなくなったら生きていけないと思いました。かさ岡さんは原爆の後、みんなの心がなくなると言っていました。死体を見てもなにも感じなくなって、長いこと死体をそのままにしてしまうそうです。それと子どもたちにはみんな夢があったけど、その夢がかなわずにみんなしんでしまったと言っていました。

戦争はみんなの夢も家族もこわしてしまいます。どこの国でも戦争になってほしくはありません。でもウクライナでは今も戦争が続いていて、きっとたくさん子どもたちが悲しい思いをしています。だからわたしは戦争に反対です。これからも戦争の本をたくさん読んで、昔あったことをもっと知ってどうしたら世界が平和になるか考えたいです。(加古川小学校 4年)

私は家族と広島平和学習に行きました。路面電車を見るのも初めてで、見た時は乗ってみたいなど思いました。道路はすごく広くてきれいな街で、この街に原爆が落ちたなんて信じられませんでした。着いてすぐ原爆ドームを見ました。資料館の外にはたくさんの外国の人がならんでいてびっくりしました。

資料館には原爆が落ちる前と後の町の様子分かるもけいがありました。原爆が落ちると一瞬で街の色が変わって、建物がなくなっていました。それが怖くてなんども見ました。あとさわれる展示物もありました。ガラスのビンが熱さで形がぺちゃんこになっていて、すごく熱かったのだとよくわかりました。バスの中で見たアニメ「しんちゃんの三輪車」の三輪車もありましたが、すごいこげていました。

次の日は語りべのかさ岡さんの話も聞きました。かさ岡さんは原爆が落とされたとき、おばあさんと家にいたそうです。ピカッと光った光がきれいだったと言っていました。そのあとの爆発でガラスがわれて、頭をけがしてしまったそうです。あと「原爆の話を家族や友達、たくさんの人に話してください」と言っていました。わたしも友達に原爆のことを話して、平和って大切なんだよ、戦争って怖いんだよと教えたいと思いました。そして戦争はぜったいにしたらいけないことも伝えていきたいです。(加古川小学校 4年)

ぼくは、広島に行って、平和記念資料館で三輪車や服、導入展示や核兵器の危険性、核の時代から核兵器廃絶へ向けてのことや死んだ人の名前や写真もかざっていました。そして被爆者の話でも 35 万人中 14 万人の人が死んでしまっていたと聞いたから原爆はおそろしいものだと思います。ほかにも放射線や火災などのえいきょうで死んでいった人もいたし薬や食料も少なかったようだからかわいそうだと思います。そして、みんなが働かないといけなくて、中学1～2年が農業で3年生以上が工場働くように区切られていたそうです。原爆が落ちる前は、平和だったそうです。被爆者は、笠岡貞江さんという名前で 3.5 kmの地点で被爆、両親を失ったらしいです。大和ミュージアムでは、船の歴史や他の乗り物などいろいろなものが展示されていて、大和ひろばに展示されている大和は、実物の 10 分の 1 と書いてあって、中に展示されていた大和は、26mなのに本物は 10 倍だからびっくりしました。(加古川小学校 4年)

ぼくはこの平和親子のバスツアーがあると知ったとき、ぜったいにさん加したいと思いました。なぜかという、ぼくはれきしが好きで、前までは古代しが好きだったけど、最近は近代しにはまっていて、最近おこったできごとをみ近に感じられる所に行きたかったからです。広島に行って、戦争のこんせきを見て戦争のことを学べたのでそのことを作文に書きます。

まず、平和記念資料館で印しょうにのこったことは三つあります。一つ目は、原ばくドームはばく心地からとても近いのになぜのこったのかが不思議でした。もう一つは、資料館で見たやぶれてボロボロになったふくがとても印しょうにのこりました。印しょうにのこったりゆうは、ふくはそんなにかんたんにやぶれたりしないのに原ばくでビリビリにやぶれて、原ばくのい力はとてもつよくてこわいものだと思います。三つ目は、平和祈念資料館のとなりにあった平和のともしびです。それをえらんだりゆうは、世界からかく兵器がなくなったらその火がきえるということがわかったのでその火が早くきえてほしいです。

また、かたりべの方の話を聞きました。しゃしんや文しょうで見るよりも話を聞いたほうがわかりやすく、本当に体けんした人の話を聞くとこわくて戦争はもうしてほしくないと思いました。

そして大和ミュージアムへも行きました。そこでは、せんかん大和がどういうふうに出てどういうふうにしずんだかをととてもよくすることができました。

今回のバスツアーで行ったところはどれも戦争ととてもかかわりがあって、戦争のれきしをかたることで大事なしせつだということがわかりました。このバスツアーで学習したことをともだちに伝えたりしていきたいです。(氷丘小学校 4年)

私は、広島県に行くのが初めてです。初めてなので、とても楽しみにしていました。

広島市に着いて、バスをおりると、原ばくドームを見ました。原ばくは、とてもこわいと思いました。

次に、広島記念資料館に行きました。全身やけどの写真がたくさんあって、とてもこわかったです。原ばくは、すごく大きかったです。

その後、ソフトクリームを食べました。今の暑い時に食べたら、とても美味しかったです。

そして、ホテルにとまりました。部屋が広かったので、ビックリしました。ベットもふっかふかか、気持ち良かったです。

次の日、かたりべさんのお話を聞きました。原ばくのひがいを受けられた方の、お話が聞けて良かったです。マイクも使わずに、大きな声で、お話されていてすごかったです。

その後、大和ミュージアムに行きました。遊ぶ所があったので、とても楽しかったです。せんかん大和という船がとても大きくて、ビックリしました。

そして、おみやげを買いました。お友達にあげるおみやげが見つかって、良かったです。家用のおみやげもあるので、うれしいです。

私は、「広島平和の親子バスツアー」に行き、「原ばく」は、とてもおそろしい物だと分かりました。

まだ、戦争をやっている国もあるので、早く戦争が終わって、どの国も、平和になってほしいです。(氷丘小学校 4年)

8月26日、お父さんと広島に行きました。戦争の話を聞きながら、なんで戦争が始まったの

だろうって、思いました。

さいしょは、戦争で言うのがわからなかったけど、話を聞いて、こわくなって思いました。ぼくが、そのじだいだったらもういないだろうって思いました。

ぼくは、このじだいに生まれてよかったって思いました。

ぼくは、他の国でも戦争をしない、へいわの国でいてほしいと思います。(上荘小学校 4年)

わたしは、広島平和のバスツアーに参加しました。バスの中で、戦争のときの DVD を見たりじっさいに、原ぼくがおとされた広島市にいきました。8月6日の午前8時15分、天気がいいからおとしやすい理由で広島におとされました。広島におとされたぼくだんは、「リトルボーイ」と言うそうです。平和資料館ではふつうのビンがふにゃふにゃになっている物があったり、やけどをした人の写真がいっぱいありとてもこわかったです。

じっさいに、戦争をけいけんした笠岡貞江さんのおはなしをききました。12歳の時にお父さんとお母さんを戦争でなくしたそうです。3年生いじょうは、工場でぼくだんをつくったり、いなかにもいってもごはんがなかったといわれていました。いまのわたしたちのくらしでは、そうぞうできないことが笠岡さんの子どもじ代いは、あったときいてびっくりしました。

戦争のことをたくさん考えたことははじめてで、とてもこわくてかなしかったです。

自分たちが大人になる未来は、戦争のない平和な毎日がいいなと思いました。

(東神吉小学校 4年)

私は広島平和の親子バスツアーに行きました。

そして核兵器や戦争の怖さやおそろしさと、平和の大切さやすばらしさを学びました。

原子ぼくだんが落ちてきたとき、たくさんのお人の命をうばい、放射線をたくさんあびて白血病になってから死んでしまった人もたくさんいたと思います。

でも私は、原子ぼくだんは少しありがたいと思っています。

どうしてかという、日本人の男の人たちは戦争でほねだけになって帰ってきた人や、一生帰ってこなかった人も多いと思います。

そうすれば男はいなくなって女の人ばかりだと、子はいません。

原ぼくがおちて日本がこうふくしなければ、日本人はいなくなっていたと思うからです。

だから、原ぼくはありがたく思うんです。

平和はどこにでもあるわけではないと思いました。

今、日本は平和ですがロシアやウクライナ、その周辺では戦争をしています。

私は戦争の原因はしりませんが、お父さんとお母さんでは戦争の意見がちがうんです。

お父さんは、ロシアが悪くてプーチンは戦争がおわるとつかまると言います。

でも、お母さんはウクライナがロシアをたおすためにこうげきしたと思っています。

家族だからといっても、やっぱりみんなそれぞれちがう意見をもっているんだと思います。

だから、戦争が正しいと思う人と、戦争が正しくないと思う人ができたんだと思います。

(志方西小学校 4年)

わたしは、広島に平和学習に行きました。平和記念資料館に行ったり、原爆くドームを見たり、ひばく者のかたりべさんの話を聞いたりしました。戦争がこんなにこわいと感じたことはありませんでした。資料館に行った時、全身やけどをした人の写真や川にういている人たちの絵を見ているとこわくて、目を手でおおってしまいました。でも、けいけん者たちはそれをずっと見て来たのが信じられないです。

かたりべさんの話を聞いて、戦争、原爆くがもっとこわくなりました。食べる物が少なくてごはんはお湯にしょう油を少し入れて、そのへんの草を入れて食べていたそうです。今のわたしは、一日三回おなかいっぱい食べれるからしあわせだなと思います。それから原爆くが落ちた8月6日の日を聞きました。その時、かたりべさんは、たまたま休電日で休みで家にいたそうです。まどが光ってまどを見たら、きれいでその後、ドーンとってまどガラスがわれました。かたりべさんは、頭をけがしたそうです。原爆くはピカドンとよばれていたそうです。原爆くは、けがをしていない人でも放しや線をあびて、さだ子さんのように、あとから病気になって亡くなる人が多かったそうです。原爆くっておそろしいなと思いました。昔の人にもゆめがあるけど、死にたくないのに死んでしまってゆめをかなえられないのがかわいそうだなと思いました。

今、ロシアとウクライナが戦争しているけど一日でも早く終わってほしいです。そして戦争のない平和な世界を作り、みんながえがおで楽しくくらすように。

平和学習にさんかして、戦争のおそろしさを知ることができたので、もっと勉強して伝えられたらいいなと思います。(氷丘南小学校 4年)

わたしが広島にいて、心にのこったことは、平和記念資料館にてんじされていた物です。げんばくであれほどのひがいがでることなんてしらなかったです。ズボンとかだったら、ほぼあとかたがなくなっているし、もともと白かった服も、血でピンク色になっていて、これだけひさんなことになるんだなと思いました。あと、資料館においてあった写真や絵から、こんなことがあったんだな、たいへんだったんだなと思いました。たとえば、顔から落ちる目を、手でひろうようすの絵とか、全体大やけどをしている女せい、男せいとか、川にとびこむ人たちの絵とか、いろいろありました。資料館に行った感想は、ニュースとかでは、げんばくが落ちて78年とかは聞いていたけど、昔の日本にこんなたいへんなことになってたんだな、と初めて心のそこから思いました。これからは、こんなたいへんなことにならないといいなと思いました。

次に、大和ミュージアムに行って心にのこったことは、せんかん大和は、あれだけ大きいんだなと思いました。なぜかという、せんかん大和の1/10のもけいでもあれだけ大きいのに、あれの10倍の大きさが本物でほんとうに大きいからです。そしてミュージアムには遊ぶとこがあつて、とっても楽しかったです。でも、せんかん大和のさいごがとってもさみしかったです。なぜかという、アメリカのふねに、4はつもうたれてしまって、しずんでしまったからです。だから死者もたくさんいて、兵庫県も思っていたよりたくさんいました。

今は、こうやってあんぜんにくらせているけど、いつせんそうがはじまるかわからないので、しょうじきこわいけど、いつまでも、平和なまい日がおくれますようにと思いました。

(東神吉南小学校 4年)

ぼくは、「広島平和の親子バスツアー」で広島を中心部に行き、見たかんじは、ふつうの町だけれどバスのアニメを見て資料館にも三輪車が残っていて本当にあったことなんだなと思いました。あと佐々木禎子さんは願いがかなうようにとつるをすごく折ったけれど願いがかなわなくてかわいそだったし原爆はすべての人の心を、いためつけてしまってそれにすべての人の幸せをこわしてしまう原爆は広島だけじゃなく長崎にも落とされそれで思いうかべたのはちいちゃんのかげおくりと言う三年生の国語の教科書で書いてある空しゅうの話です。

今、ロシアとウクライナで戦争をしていて多くのぎせい者がでていて戦争は兵きをすごく使うので町が破かいされ、いろいろな場所が燃えてしまうので早く平和になってほしいとぼくも他の人達も思っています。

人影の石があって本当は人だった物が熱線ととかされてほねも残らずバスのアニメでもう一つが人影の石のところにすわっていた人がでてきて三輪車の話の子もでてきてあんなにふつうの人達で何にも関係ない人たちは、原爆で死亡してしまってすごくかわいそうだなと思いました。

原爆で生き残った人でも被爆者としていつどんな病気になるか分からないきょうふと共に生きていかなければいけないから広島の人も長崎の人もかわいそうだし残こくだと思いました。

(加古川小学校 5年)

ぼくが、この旅行を知ったのは学校からくばられたプリントでした。内容に目をやると、行き先は広島平和記念資料館でした。二学期に国語の授業で、このことについて勉強するので気になりました。お母さんから、「少しこわいかもしれないけど大丈夫？」と聞かれて少し不安もあったけど、勉強に役立つかもしれないと思ったし、自分の目で見てみたいと思い参加する事を決めました。

一日目の朝、とてもきんちょうしました。広島について、バスをおりて少し歩くと、原ばくドームが見えてきました。だんだん近づいていくと、すごいはく力でした。次に、平和の灯し火を見ました。かく兵器がなくなるまで火が灯されると聞きました。早く火が消えるといいけど、戦争のニュースを見ると、本当になくなる日がくるのかなと不安にもなります。実際、平和記念資料館に入ってみると、半分も見て回らないうちにおなかがいたくなってきました。ボロボロの服、ご飯が炭化した弁当、ぐにゃぐにゃに曲がってしまった小ぜに、大きなやけどをおった女性の写真、とてもくるしんでいて、中には、目が落ちている、子供達の絵。他にもたくさんの物があつたけど、どれを見ても悲しい気持ちになるものばかりでした。たった一発のばくだんでこんな事になってしまうなんて、本当に信じられませんでした。語りべさんの話も聞きました。家族を無くしてらっしゃり、つらい経けん談を一生けんめいに伝えて下さいました。だからぼくも、このきちょうな話しをぼくだけのものにせず、友達や家族にも伝えていきたいと思いました。こ

の事実をずっとつたえていけたら、世界中のだれも二度と同じ目にあわないですむのかもしれないと思います。平和の灯し火が早く消えるのをねがうばかりです。(氷丘小学校 5年)

ぼくは、今回広島に初めて行きました。戦争のことは、先生や父母から「恐ろしいから、絶対にあってはいけないもの。」と聞いていました。でも話を聞くだけでは、あまり恐ろしいと感じませんでした。そんな考えで資料館を見学したら、ぼくはとても、ショックを受けました。ぼくと同じぐらいの小学生が原爆でたくさん死んでしまったのです。黒こげになった三輪車や真っ黒のお弁当箱など、見ているだけで逃げ出したくなりました。ぼくたちは、好きなものは食べることができるし、着るものだって買ってもらえます。いままで、わがまを言っていた自分が、とてもはずかしく思いました。笠岡さんのお話をきいて、戦争と原爆の恐ろしさがだんだん伝わってきて、ぼくたちはたまたま平和な日本にいただけで、いつ戦争にまきこまれるかわかりません。笠岡さんがいっていた「見たり、聞いたりするだけではなく、はなし伝えてください。」という言葉をおぼれず、いつまでも平和で安心してくらせるように生きていきたいと思います。戦争でなくなった子供の分まで、ものを大切にし何でも残さず食べるという当たり前のことから初めていきたいと思います。そして家族や友達を大切にします。今回はいろいろなけいけんをさせてもらいありがとうございました。(氷丘小学校 5年)

わたしは、原爆ドームや広島平和記念資料館を見て、放射線や黒い雨の事を知りました。放射線を浴びると、かみの毛が抜けたり体にむらさき色の斑点が出たり、とても被害があるなど聞き、原爆のおそろしさが分かりました。写真パネルで火傷をした人達の姿を見て、わたしが知っている熱いお湯やアイロンを少しさわってしまった時の火傷ではなく、見た事のない火傷で、どれ位いたかったのか、考えてみても想像もつきませんでした。

被爆体験講話では、わたしと同じ位の年で原爆にあった人の話を聞きました。人が真っ黒になったりゆうれいのように手を前につき出して歩いていたという話を聞きました。ものすごく悲しい思いやこわい思いをしたのだらうなと思い、そしてこんな経験はもう誰にもしてほしくないんだらうな、という気持ちも伝わってきました。

大和ミュージアムに入ってすぐの場所に大和がかざられていました。とても大きいなと思ったのにそれは10分の1サイズと書かれていました。本物はどれだけ大きかったのか、ピンとこない大きさでした。今まで大和は大かつやくをして日本を守るためにあちこちの海で戦いをくり広げたと考えていたけど実際は大きすぎる上に、世界の戦争の方法が飛行機中心になっていたので、余り活やくできなかつたのと知りました。展示室に並べられていた人間魚雷の説明文を読み、そこまですて戦わないといけなかつたのかと悲しくなりました。

ツアーに行く前は、戦争や原爆について分かっていると思っていたけれど、実際に資料館で見たり体験者の話を聞いたりしてみると全然分かっていませんでした。広島に行って、色々な事をたくさん知れました。これから少しでも戦争のおそろしさについて広める事ができればいいなと思います。(氷丘小学校 5年)

ぼくは、このツアーに行って、様々なものを見ました。なぜ、このツアーに行ったのかというと、原爆くの恐ろしさを知って、学びたいと思ったからです。

このツアーではまず、加古川市役所でバスに乗り、サービスエリアにも寄って広島県に着きました。そこには、原爆くドームや原爆くの子の像などがありました。そして、平和記念資料館も見ました。見終わったら、またバスで移動してホテルに着きました。そして、自由行動の時間があって、寝て、朝起きたら朝食を食べて、またバスに乗り、平和記念資料館へもう一回行って、実際にひばくした人のお話を聞きました。戦争と原子ばくだんの恐ろしさが分かるお話でした。その後、呉の大和ミュージアムに行きました。戦かん大和のもけいや、呉の歴史がいろいろ書かれてありました。そして、バスに乗って地元の兵庫県に帰りました。

広島県へ行って一番心に残った場所は、やっぱり原爆くドームです。何故そのように思ったかという、原子ばくだんが落とされてしまう前はきれいな所だったというのに、しゅん時にしてボロボロになってしまったので、そこから原爆のい力や恐ろしさが分かったからです。また、平和記念資料館では、原爆くで亡くなってしまった人たちのい品や原爆くのひ害にあった人たちの写真があったりして、心がしめつけられました。

このツアーに参加して、戦争や原爆くはとても辛く、苦しみしか手に入らないので、二度とそのあやまちをくり返さないようお願いしたいと心から思いました。(神野小学校 5年)

ぼくは広島平和の親子バスツアーへ行きました。なんでこのツアーに参加したかという、広島など遠い所に行くのがいいな。と、思ったからです。

印象にのこったことは三つあります。一つ目はひばくたいけんの話です。なぜ印象にのこったかという、ひばくちから三千メートルほどはなれたところなのにひがいがあったからです。けっこうきょりがはなれているのにまどガラスがわれて、とんできたことをきいてとてもびっくりしました。きょりがとおくてもとどくげんばくのいりよくにびっくりして、こわいな。と、思いました。

二つ目はバスの中でみたビデオです。はじめは、このビデオはなんだろうかと思っていたけど平和記念資料館にいったら、このビデオはこういうことだったんだ。ということがよくわかり、ビデオをみたことでこの人はこういう人なんだということがよくわかってとてもよかったと、思いました。

三つめはせんかん大和についてです。ぼくは大和ミュージアムにはいってせんかん大和の十分の一のもけいをみて、これが十分の一ならどれだけ大きかったんだろうか。と、思いました。けど、そんなすごいせんかん大和がてきにやられてしまったのにびっくりしました。いくらつよいものがつくれても、せんそうはやめてほしいと思いました。

ぼくが広島平和の親子バスツアーをしておもったことは平和のたいせつさです。ぼくはいく前は、べつにいまはせんそうしてないしどうでもいいでしょ。みたいなことをすこしおもってたけどこのバスツアーにいて平和のたいせつさがよくわかりました。ぼくももう二度とげんばくや、ミサイルをつかったり、戦争をしたりすることをやめてほしいと、思いました。

(野口小学校 5年)

ぼくは、8月26日に広島バス旅行に母と一緒にきました。午後2時に原爆ドームを見学しました。原爆ドームは、もともときれいな建物だったのですが、たったの1.5メートルほどの大きさの原子爆弾の爆発によって、原爆ドームのかべやガラスは吹き飛んで、今ではぼろぼろになったそうです。しかも原爆の爆発は1000度という高熱だったため、爆発した場所にいた人たちは皮ふが焼けただれ、水を求めて、火がぼうぼうと燃える荒れ地を歩いていました。中には、体のほとんどをやけどする重症の人がいましたが体が少しやけどした軽症の人しか病院に入れてもらえなかったり、やけどに薬をぬってもらえない人もいました。原爆資料館にて、戦争で亡くなった兵士の人や子どもたちの生きていた証明の服やくつ、水とうがてんじされていました、午後3時に見学しました。語り部の貞江さん(被爆者の方)に教えてもらった実際の体験は、12才のときに、日本が戦争中だったため、食べ物が少なく、貞江さんは、まだ成長のために栄養がたくさん必要のため食べ物をたくさんたべないといけませんが、食べ物が少ないため、麦ごはん茶わん一杯、少量のすましじるしか食べれませんでした。貞江さんは、学校に通っていましたが国の方針によって学校に通っている人たちは、国に指定された作業をすることに、なっていました。広島に原爆を落とされた日に貞江さんは、作業を休む日だったため、少し被爆しただけでしたが、作業に行っていた貞江さんの友達は亡くなったそうです。

ぼくは、思い出したくない辛い体験をぼくたちに教えてくれた貞江さんに關心しました。最後に1つ貞江さんは本当に大切なことを教えてくれました。日本だけでなく日本と戦争した中国、韓国の人たちも、広島の人たちと同じ思いをしていたと教えてくれました。

(野口小学校 5年)

ぼくは、広島に行って楽しかったです。バスは、しんどくて、でも、バスで、いろんな景色が見れて楽しかったです。

おみやげがいっぱい買ったから、家で食べるとおいしかったです。

ホテルがすごくて、楽しかったです。部屋が、きれくて、景色がよかったです。部屋で写真をとったらきれかった。

せんそうの資料館を見て、かわいそうだなと思いました。ふんすいとか、おべんとう、服、とかがありました。

せんそうの話も聞いたけど、むずかしくて、あまり聞こえなかったです。

広島のおひるごはんは、ラーメンでした。ラーメンがおいしくて、もういっぱい食べたかったです。よるごはんは、おこのみやきで、食べ残したごはんは、よるの10時に食べたらおなかがいたくなりました。朝は、いっぱい食べたらはがいたくなりました。

せんそうは、こわいと思いました。(尾上小学校 5年)

ぼくは今回、初めて広島に行って原爆ドームでは元々は広島県物産陳列館だったものだそうで

す。爆心地から 160 メートルすごく至近距離で爆発してしまい今の原爆ドームの状態になってしまったのが中にいた人はまだ生きられたのにすごくかわいそうだなあと思いました。平和記念公園では様々な所からのたくさんの折りづるがあつて他の人たちからも亡くなった人たちのことを想っておりづるを折ったのかな〜と思いました。ぼくたちと加古川市役所の折ったつるも亡くなった人たちにとどいたらいいと思いました。平和記念公園のモニュメントでは様々な人達の名前があつて 14 万人の中から名前が分かっている人と分かってない人がいてだれにも知られてなくて覚えられてなくてまだ生きられたのにかんげいない人が死んでしまったのが心苦しいです。水を求めて川の方へ行った人が放射線にあたっていた水だから何も知らないまま生きのびるために飲んでしまった人が飲んだ直後にたおれてそのまま消息をたつてしまった人が何にも感じずに死んでしまった人がかわいそうです。1945 年 8 月 6 日 8 時 15 分に夏休みの人たちが楽しんでいる時に落ちているのがすごくすごくかわいそうです。まだ生まれた人もいるかもしれないのにすぐに命を絶えてしまい落ちていなければまだ生きていたかもしれないのに本当に苦しかったと思います。ぼくはこの話を話めてきて勉強になりました。(鳩里小学校 5 年)

ぼくは、今回のべんきょうで、二度とこういうことがあつてはならないことを、昔はして、それでたくさんの方が亡くなったから、その時の事も覚え、今の平和な日本があると思えます。特に、原子爆弾をたつた一つおとすだけで、とても大きいひがひ、たくさんの方の命、たくさんの方の夢をその一つですべてこわしてしまふ、おそろしい物なんだとあらためて思いました。

大和ミュージアムでは、とても大きい船や、爆弾などを搭載した潜水艦などがあり、その中でも一番の船は「戦艦大和」だった。

当時世界最強とも言われた大和は、四国から沖縄へ向かつて航海していたと中に、アメリカ軍に空から襲撃され、最強だった大和は、海の底へとしずみ、その後姿を消した。航海しているときに襲撃されるって、とてもおそろしいことだなと思いました。

原爆で、両親を亡くした人は、そこらへんにおる人は、目や口などがたれさがり、知っている人が亡くなつたり、真っ黒になつたりだれがだれかも分からなくつらさもあつたと原爆にあつた人が言いました。

ぼくは、これからもう二度とこういうことがないようにしたいです。

ぼくがおもうには、あの原爆ドームには、原爆のせいで亡くなった人の魂があそこに、やすらかにねむっているとおもうと、とてもぞつとしました。

なぜ、急にあんなにおそろしい戦争というのを作つたのか、なぜそれをやろうとしたのか、今の現実を見て、深く反省してもらいたいです。(平岡北小学校 5 年)

2023 年、今年で戦後 78 年をむかえる。ぼくは現在 11 才だから戦後 67 年たつてから生まれたことになる。ぼくの今生きている時代は楽しい。勉強は得意じゃないけれど、友達と遊んだり、ゲームしたりなに不自由なくすごしている。語りべさんの話を聞いて、戦時中の子供たちにも夢があつたんだよ。と聞いてぼくは正直少しおどろきました。学校で戦争中の生活はとても想像が

できないくらいに大変だったんだよ。食べる物も着る物もとても少なく勉強したくてもできない子供たちが大ぜいいたと習いました。だからぼくは戦争中は生活ぜんぶが戦争で暗い生活をしていたと勝手に想像していました。たく山やりたいことや夢をもっていたのに戦争中だからの理由で夢も命もうばわれるなんておかしいと思います。

どうしてみんなで仲良くできないんだろうと思います。ぼくもケンカしたりするけど最後はおたがいにあやまって仲直りします。大人の世界はきっと大変なんだと思います。だけどみんなで話し合ってみんなが戦争じゃなくて幸せになるにはどうしたらいいか考えて話し合えば、きっと戦争はおこらないのかなと思います。それでもおこってしまったらまたみんなで話し合っていくのが大切だと思います。

地球は1ツしかないからみんなで話合い支え合い一人一人が生きやすい毎日が続けばいいなと思います。戦争のことを忘れず自分にできることはツアーで学んだことをまわりの人に伝えていくことから始めていこうと思います。ありがとうございました。(尾上小学校 6年)

ぼくは、学校で配られた「広島平和の親子バスツアー」のお知らせを見て「行ってみたい。」と思い親に相談し応えました。

一日目はまず原爆ドーム、原爆の子の像を見たあとに平和記念資料館に行きました。ぼくが一番おどろいたのは爆心地から三キロメートルはなれたところでは爆風だけがき爆だんが落とされたことには気づかず無傷の人たちも数日後だったり数ヶ月もしくは数年後に放射能などで死にいたり、七十八年経った今現在でも後いしょうに苦しめられたりしていることです。次におどろいたのは当時の人々の暮らし方です。食べ物ではおいもなど配給制で好きな物が食べられないのはもちろんお腹いっぱいになる量はなく毎日お腹をすかせていました。中学一年生になると建物そ開や農業のどちらかの仕事を選び、中学三年生になると工場銃弾を作る仕事をさせられていた。この時代の学生たちは今のような毎日学校に通う生活を送ることさえできなかったことを知り、今の毎日の生活がどれだけ幸せなのかを知りました。また平和記念資料館に入場するために多くの人たちが暑い中行列を作っていました。その中の半分くらいが外国人だったことにぼくはすごくびっくりしました。

二日目は『被爆体験講話』として語り部さんの話を聞くことができました。九十才の笠岡貞江さんです。この方は今の自分と同じ年齢のときに被爆され両親を亡くされました。お父さんは爆心地の近くにいたため全身大やけどを負われ病院に行ったが薬も少なかったのでけがのひどい人は治りようされず追いかえされ薬はけがのかるい人に回されたと知りました。

被爆地では七十五年は草が生えないと言われていたそうですが翌年には新芽が生えてきて人々に勇気をあたえたと言われた。笠岡さんは広島でおこったひさんな現実をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと願っています。

この二日間を通して思ったことはぼくの今までの知識とはほどとおい現実の世界のこわさがありました。これから二度とこのような戦争がおこらない世界にしないとイケない。

(別府小学校 6年)

私は今回、初めて広島平和記念資料館に行きました。そこで見たものは、現実とは思えないようなおそろしいことでいっぱいでした。

一しゅんで火の海になって黒こげになった写真。すごいけむりがあがり、とつ然せん光につつまれたそうです。

頭はつは焼けちぢれて、服はぼろぼろになってしまっていて、私は、かみの毛が焼けちぢれてしまうなんてすごいひ害だと思いました。

こわいと思ったことは他にもあります。黒い雨です。放射能をおびた黒い雨のことです。これを、のどをうるおすために飲みこんだそうです。私は、放射能で雨が黒くなって、それを飲まないといけなほど水がなかったことがこわいと思いました。

二日目は、実際にひばくした方のお話を聞きました。まどガラスが光って、オレンジ色になり、粉々になったそうです。頭がぬるぬるすると思ったら、まどガラスがささって、血が出ていたそうです。また、その方のお父さんは、体がまっ黒で何も着ていなくて、姿でだれか分からなくて、声で分かったそうです。他にも、皮下組織がやられてひどいにおいがしたり、ハエやウジがわいていた人もいたそうです。私は、この話を聞いて、だれか分からないくらいにまっ黒になったり、人の体にハエやウジがわくなんてこわいと思いました。

それに、生き残った人もなぜ自分だけ生き残ったのかと自分を責めた人もいたそうです。原ばくは、生き残った人にもつらい思いをさせて、ひどいと思います。

私は、今まであまり原ばくのことを知りませんでした。つらい思いをしながらも生き残った人からもらった命を大切に、平和を受けついでいこうと思います。(浜の宮小学校 6年)

私は、初めて原爆ドームや原爆資料館を見てこの幸せな世界に生まれてきたことに改めてとても感謝しました。

理由は、原爆資料館を見て回って私が学校で勉強して知ったこともとても辛く、酷いと思っていたのにそれよりもはるかに辛い現実があったことにととてもおどろいたからです。見て回ってる間お腹がきゅつと痛くなって、見ていられないくらい酷い傷がある子どもたちの写真、丸焦げになった弁当や三輪車などのたくさんの写真や展示品があったからです。私は、これを見てなぜ人間は戦争をするのかと改めて思いました。

そして、一番心に残ったのは丸焦げのお弁当箱があったことです。何故かという、そのお弁当を楽しみにして出かけたのにそれを食べることができずに原爆のせいで亡くなってしまった方がいるからです。そこまで辛くないと思った方、それは本当にそうですか？そう思う理由は、食べれるのが当たり前だと思ってるからではありませんか？戦争のときはそんなものなど、当たり前ではありません。なので、そんなに辛くない、とか思わないでください。原爆で亡くなった方、被爆者の方の経験を他人事と思わず自分ごとの事のように思ってください。そうすればきっと、そこまで辛くないなど思いません。

今では平和主義があり、戦争がないので遠足などでお弁当を食べることが出来ます。ですが、それを当たり前と感じるのではなくありがたいと思いながら食べるのが大切なんだと感じさせら

れました。

これから、みなさんもお飯を食べるのが当たり前と思わず、ありがたいと感謝して食べれるように心がけてみてください。

今ある当たり前の事は、いろいろな方のぎせいの上にあるのだと改めて思いました。

(氷丘南小学校 6年)

私は、広島バスツアーに行っていていろいろなことを学びました。知らないこともたくさんありました。

初めて原爆ドームを見て、屋根の骨組みが見えていて損傷が激しいと思いました。資料館では、死者が十四万人だと知り、思いうかべてみました。私の学校が五百人ぐらいなので、その三百倍が死者だと知りました。

資料館を見ると、火傷の写真が多くて、こんなにひどい火傷は見たことないと思いました。他にも、写真や物を見て、戦争っておそろしいと思いました。特におそろしいと思ったのは放射線で、目に見えなくて、体の中に入ると病気になるからです。そして、平和記念公園では、つるを持った女の子の像があって、これが子供達がぼ金したからだだと知ると、すごいと思いました。このつるを持った女の子が、実際にいた禎子さんだと知り、すごく勉強になりました。千羽づるなどのつるの作品が置いてあって、すごいと思いました。そして、被爆体験講話では、資料館で疑問だったことを知れて、勉強になったし、原爆が落ちた後の生活も知れました。そして、大和ミュージアムでは、戦かん大和の十分の一の模型があって、こんなに大きな船を作っていて、すごいと思いました。他に、大和が最初に戦ったところや、最後に戦ったところを知れて勉強になりました。展示室では、たくさんの機関が見れました。それぞれちがう役割を持っていて、面白いと思いました。広島バスツアーに行くと、戦争のおそろしさ、平和の大切さについて知れました。バスツアーに行く前は、戦争について知っているつもりだったけれど、実際に行くと知らないことが多かったです。バスツアーに行くと平和ってさらに大切だと思いました。

(東神吉南小学校 6年)

私は、今回広島へ平和学習に行き、戦争の悲惨さ、原爆のおそろしさ、命の尊さを改めて知ることができました。平和記念公園を出た後、バスの中から見えた町は、昔あんな出来事が起きた町には見えませんでした。

今回原爆ドームも見たのですが、写真で見た時の物とまったくの別物に感じました。かべはボロボロで、鉄骨が見えました。この原爆ドームはおそろしさを伝えるために必ず後世に残し、伝えていくべきだと思いました。

そしてこの平和学習で一番印象に残っているのが語り部さんのお話です。被爆しすべて見てきた方だからこそ伝わる物がありました。けがや火傷で亡くなる方、放射線や黒い雨により、原爆病にかかり亡くなる方。生きのびた方も大切な人たちをなくした悲しみを味わい、ひふがただれたり、傷や火傷のいたみを感じながら生きたということがはっきりとわかりました。すごく胸

がいたくなりました。きっと苦しさにたえきれず自殺してしまった方もたくさんいたんだろうなと思いました。もしあの日原爆が投下されなければ生きていたはずの人たちがどうしてこんな目にあわなきゃならないんだと思い、悲しくなりました。でも原爆が投下されたことによって日本は戦争をやめ、今日まで平和でいられたのかと考えると複雑になりました。しかし、そもそも戦争なんて起きなければこんなことにはなっていないはずだと考えました。だから、今後絶対に戦争をしないと決められている今の日本はとてもいい国だと思います。

ですが、今日本は平和ないい国と思うと、他の国は大丈夫なんだろうか、もうだれにもこんな目にあってほしくないなと思いました。最近ニュースではあまり見なくなりましたが、ロシアとウクライナの争いが今もつづいているということ思い出しました。悲しくなりました。せっかく平和だったのになと思いました。また、アフガニスタンなどでもまだ人どうしの争いは続いています。ぼ金をするくらいしか私にはできませんが自分にできることをやっていきたいなと思いました。早く争いが終わることを願うばかりです。

今回学べたことを忘れず、後世にずっと伝えつづけていこうと心から思います。そして世界中のだれもが平和に暮らしていけるように行動をしていきたいと思います。(中部中学校 1年)

ショックを受けた。六年生のとき、原爆が広島と長崎におちたことは知っていた。しかし、これほど残酷で悲惨だったとは、考えつかなかった。

アニメ「しんちゃんの三輪車」を観て、そして、原爆資料館にあった本物を見て、それがよく分かった。ぼろぼろになった三輪車を見て、一瞬にして原爆は人の幸せを根こそぎうばっていくのか、と考えるだけでも恐ろしかった。

僕と同じ歳の人たちも、たくさん亡くなっていたのが資料館に行って分かった。語り部さんの話をきいたとき、語り部さんも被爆したときは同じ歳だったことが明らかになった。自分が語り部さんと同じ人生を歩むとすれば、こんなに辛いことを話せるだろうか。自分が生き残ったのだから、この悲劇をみんなが忘れないようにするのが私の役目だ、と考えているのがとてもすごい、と感じた。母が言っていたが、現実から目を背けずに生きておられることに、感じ入るものがあった。

原爆の放射線による病気で亡くなった人も大勢いらっしゃることも知った。それで亡くなった禎子さんの話をアニメで、そして資料館で見た。容体が少し悪化しても、家族には教えず、痛くても元気にふるまったその心が、思いやりがあって素晴らしいと思った。そのまわりのクラスメートたちが、禎子さんのためにと、原爆の子の像を募金をつのってつくった、ということにも、感激した。像を見たとき、クラスメートたちの気持ちが、もっと分かったような気がした。友達が失われた中で、原爆のことを考えるのは辛かっただろうけど、もう核はやめてくれ、という気持ちを発信しよう頑張ったのか、と分かったと、さらに尊敬の思いが高ぶった。

僕も何かできることはないか、と思った。そのとき、僕は資料館で核兵器禁止条約の早期締結を求めることに署名する紙を見つけた。募金、という考えはあったが、「署名」と聞いて、そういう方法もあるのか、と気づいた。募金は家のお金を使わなければならないが、署名なら誰でも

できる。そういうものを見つけて、核廃絶に協力できれば世界も変わると思う。

戦争もやめていかなければいけない。お互いに何もかも失っていくしかないからだ。日本が終戦してから 78 年。あの記憶が消えそうになっている今こそ、もっと争いについて考えていかなければならないと今回のツアーでよく分かった。これからも原爆の悲しさを忘れず、なくしていくために自分のできることをやっつけていこうと考える。

そして、戦争とは、争っている人のことを何も考えず、人、ではなく国、と見ているからおこると母は言う。僕は、他国の人と話せるようにするためにも、勉強をがんばっつけていこうと思う。

(平岡中学校 1年)

僕は、今回の原爆ドームの見学に行って、たくさんの方が知れました。

まず広島平和記念資料館に行きました。そこでは被爆した人の様子が書かれていたり、たくさんの方が書かれてありました。他にもボロボロになった服や焼けこげている物がたくさんありました。いままで原爆のことはあまり知らなかったもので、こんなに怖くておそろしい物だと分かりました。次の日には、被爆体験講話を聞きました。今では被爆していた人は少ないので、今まであまり知らなかったことが知れました。被爆した後は家もなく生活がたいへんだと聞いて、今は日本は戦争してなくてとても平和だなと思った。でも、今のウクライナの方はこんなことが毎日あって、生活が苦しくてたいへんということが分かった。最後に大和ミュージアムの見学をした。大和ミュージアムでは戦艦大和の 1/10 のサイズで展示されていると言われたが、1/10 のサイズでも思ったより大きかった。ここでは船の歴史や大和を使った人やそれまでにおこったことが色々かかれており、たくさんの方が説明があって、わかりやすかった。他にも当時の飛行機や大和に使われていた魚雷のもけいなどが展示されていました。

さらに大和につかわれていたパーツやねじなども展示されていました。

今回、見学をして思ったことは原爆は自分達の思っている何倍も怖いことが分かりました。被爆された方の話も聞いて、これが長崎にも落とされて 2 個もおとされたからすごいひがいと今回でしりました。こんなことがおこるならもう世界で戦争という物がなくなってほしいと思いました。世界で戦をなくすには世界の人たちが平等になかよく生活できるようにできれば戦争がなくなると思います。(氷丘中学校 1年)

僕は、広島平和の親子バスツアーに参加しました。そこで、戦争の悲惨さや平和の大切さを痛感しました。

僕は初めて広島に行きました。いつか行ってみたいと思っていたので、この機会に広島に行けて良かったです。

バスの車内では二本の DVD を見ました。どちらも悲しい話で心が痛みました。

広島平和記念資料館に着くと、そこには、信じられない光景がありました。破壊された街、全身に火傷を負った人、放射能の影響を受けた人、残された遺品……。その事実を、僕は信じられませんでした。信じたくありません。原爆によって多くの命を奪い、生き残った人々も悲しみと

絶望を与えたアメリカは許せないと感じました。

しかし、被爆体験講話でかたりべの笠岡貞江さんは、「日本も戦争をしたから悪い」とおっしゃっていました。また、「アメリカ憎い」から「原爆憎い」に変わったとおっしゃっていたことも印象的でした。僕もその通りだと思いました。原爆ドームの保存のことについても、賛否両論あったと知り、それくらい悲惨な出来事だったと分かりました。そこから広島を復興していったのもすごいなと思いました。いつかこの世界から核兵器が廃絶され、戦争のない平和な世の中になって、広島平和記念公園の火が消えてほしいです。笠岡さんは、両親を原爆で亡くされているのに、マイクを使わず立って力強く話をされていてすごいなと思いました。笠岡さんの話はすごく勉強になったし、僕達も後世に語り継がないといけないなと思いました。

そこから、大和ミュージアムに行きました。そこには、戦艦大和などの数々の戦艦の説明や歴史、縮小模型や、船に関する施設がありました。そこで感じたことは、戦艦大和がすごく大きくてびっくりし、同時にカッコいいなと感じたことと、やはり戦争はいけないということです。戦争で戦艦大和の沈没や特攻などによって大勢の人々が命を落としているので、戦争はいけないなと感じました。

広島平和の親子バスツアーで学んだことは、戦争は絶対にしてはいけないということです。これまでに戦争によって大勢の人々が命を落としています。だから、この事実を決して忘れず、平和な世の中を実現するために、世界から核兵器と戦争をなくしていく必要があると思います。そのために、僕ができることは、戦争中に広島であった事実を忘れず、そこから学んでいく必要があると思いました。(氷丘中学校 1年)

僕は八月二十六日と二十七日の二日間で、広島の平和記念資料館などをまわって、平和の大切さについて勉強しました。

一日目は原爆ドームや、平和記念資料館を見学しました。バスの中で流されたビデオでは、まだ四才にもならない男の子が原爆のせいで亡くなったという事実を知って、とてもショックを受けました。平和記念資料館では、実際の写真や絵から戦争の怖さを感じました。皮ふが手からたれさがる、という話を聞いていましたが、実際にはもっとひどく、放射能によって今でも苦しめられ続けている人がいることを知りました。地下一階の資料室で見た「はだしのゲン」は見ているのが怖くなってしまふほどひどく、戦争のおそろしさが伝わってきました。

二日目は、実際に被爆された、語りべさんの話を聞きました。親が原爆によって真っ黒こげになって焼け死に、無数の人が手の皮が、手の先からたれさがった状態で「水、水…」とうなりながら亡くなっていったそうです。その後にくらした、放射能をふくむ通称「黒い雨」は長年人を苦しめているそうです。

今、「原爆」と検索すると、「原爆切手」や「きのこ雲」といった、みにくく、おそろしい結果が返ってきます。今、ロシアやウクライナでは二年以上におよぶ戦争がおこっています。中では、ロシアが核を使うこうげきをし、ウクライナをほろぼしてしまうのではないかと、という声もきかれます。戦争は本当におろかだと思います。自分の利益のためだけに、全然関係ない人をま

きこみ、最後は絶対に最悪な結果を残して終結します。広島や長崎のように、世界のどこかで戦争によって原子爆弾がおとされ、これ以上多くの人が苦しんだり、亡くなったりすることがないようにいひます。(氷丘中学校 1年)

私は、演劇部に所属しています。今年度の加古川市中学校合同演劇発表会で戦争をテーマにした「150分」という演目で特攻隊の役を演じました。今まで戦争にはあまり興味がなかったのですが、自分の演じる特攻隊を学んでいくうちに、戦争についてどんどん興味が沸いてきました。私の通う浜の宮中学校近くには、浜の宮公園があり第2次世界大戦中の旧陸軍航空通信学校尾上教育隊の跡地、そばには特攻隊の中継地点となった加古川飛行場があります。身近に戦争跡地があることを知り、ますます戦争について学んでみたいと思いました。

今回、母に「広島平和の親子バスツアーがあるけど、参加してみる？」と言われた時は、速答で参加するといいました。

広島は初めてでした。教科書の写真で原爆ドームや原爆の写真は見たことはあったけど、実物は見たことがありませんでした。

一日目に原爆ドームと平和記念資料館、平和記念公園、追悼平和祈念館に行きました。

いつも終戦日にテレビで見る公園でした。

原爆ドームは、もっと大きいのかと思っていましたが、思っていたよりも小さかったです。でも、何か暗い感じがしました。平和記念資料館に向かう途中で1000羽鶴を原爆の子の像の所に手向けました。たくさんの鶴がありました。たくさんの人々が訪れているんだなと思いました。平和記念資料館に入場しました。たくさんの人がいました。たくさんの写真と展示品がありました。ゆっくりと見ていきました。ヤケドでドロドロの肌になった人、目がとびでた人、展示品は、焼けこげた服や溶けた鉄や三輪車があり、とても悲しくなってきました。戦時中の人、私と同年代の人と比べても、とても身長とかが低かったんだと、展示品を見て感じました。

最後の方に、体験談コーナーがあり、そこでビデオで体験談を聞きました。一日目は、いろいろ見れてよかったです。

二日目は、体験談と呉市大和ミュージアムに行きました。語りべさんが原爆を体験したのは私と同じ年だったことにびっくりしました。

その頃に働きにでてたこともびっくりしました。私は平和な時代に生まれてよかったですと感じました。呉の大和ミュージアムでは、大きな戦艦と戦闘機が展示してありました。

私は、特攻隊の戦闘機を見て、何か胸がこみあげてくるものがありました。たくさんの特攻隊の方々の名前がのっていました。本当にたくさん。私は、特攻隊は飛行機だけだと思っていました。大型資料展示室で、「回天」というものを見つけました。母にきくとこれも特攻隊が乗ってたものと知りました。空からだけでなく、海中からも特攻していたことを初めて知りました。私は今回のツアー参加でたくさんの戦争を学びました。参加できて本当によかったです。

(浜の宮中学校 2年)

私は、広島平和の親子バスツアーで、平和について、さまざまなことを考えました。

8月26日（土）では、広島平和記念公園と平和記念資料館へ行き、原爆ドームや追悼平和祈念館に行き、原爆のおそろしさを感じました。

資料館では、原爆の直後のできごとや遺品その時のようす、遺族の方々の話、原爆のこうぞう、などが展示、記載されており、悲しくなりました。その内、もっとも心にのこったのは、佐々木禎子さんの話です。2歳の時に被爆され、放射能をあび、白血病になり、入院し、鶴を折り、亡くなってしまったという話が感慨深かったからです。他にも、広島戦災児育成所という企画展では、被爆された方々のその後の人生や戦争や原爆に対する思いなどを話されていて、とても考えさせられました。

また、広島サミット回想展では、首脳の方々が原爆のことを話し合い核兵器のない世界に向けた首脳の方々の思いを感じられました。

次の日には、原爆の被害にあわれた貞江さんの話を聞きました。その中でも心に残ったのは、貞江さんのお父さんの話と原爆の被害のはんいの話です。貞江さんのお父さんは、全身黒こげで、最初はだれなのか分からなかったとはなされておられました。原爆の近くで受けた人は、そんなおそろしいことになってしまうのかと考えれば、すごくこわくなりました。

そして、その原爆のいりよくが数キロメートル先でもガラスがふきとぶほど高くすごくきけんなものだということが分かり、原爆はかならずなくさなければならぬと思いました。

その後、大和ミュージアムに行き、海ではどのように戦争が起こっていたかを学びました。実際に見た人の映像や、船、歴史表などがあり、とてもよく分かりました。

ほかに、さまざまなしせつがあり、船のしくみが楽しく知れました。

2日を通して学んで、感じたことは、原爆は悲劇しか生まないことです。

この世から、原爆のような被害が出ないことを願いたいと思いました。（神吉中学校 2年）

私は人生で初めて広島県に行って学んだことが沢山あります。

一つ目は原爆の恐ろしさです。資料館に行って、当時の写真や、実際に人が着ていた服やはいていたくつ、もっていたお弁当箱などを見て、とても衝撃を受けました。爆心地の写真を見ると、たてもの一つ残っていない、人もほとんどいない、そんな非現実的な景色が広がっていてとてもびっくりしました。実際に着ていた服は、やぶれていたり、血でピンク色に染まっていました。服もきていたにもかかわらず、血がでてくる、服も肌もとけているということを自分ではそうぞうできません。それだけ原爆は恐ろしい武器なんだなと思いました。

二つ目は実際に被爆した方のお話しです。空にとつぜん現れた光とともにおそいかかったばく風によりまどガラスが割れ、ガラスのはへんが頭にあたり、頭から血が出たとお話ししていました。一瞬のできごとなのに一人ひとりの大切な物をうばってしまいました。いちばん衝撃だったのはお父さんが全身まっ黒こげになって目玉が飛びでて、声をきかないとだれかわからないような姿になっていたということです。もし自分がその立場だったらと考えると心がいたいです。原爆で亡くなった人の数は昭和二十年（一九四五年）十二月末までに、約14万人と推計されてい

ます。と考えると約 14 万人をはるかにこえる数の人々が苦いおもいをしたと思います。今後はこのような事がないことを願っています。

以下の話を聞いて、私は原爆について調べてみました。まずはい力です。爆心地から一キロ以内だと、人間や動物は爆発圧力や熱気で即死。家屋その他の建物は粉碎。爆心地付近は焼失。植物はなぎ倒され炎上。

二キロ以内だと人間や動物は一部即死、大部分は重軽傷。建物の 80%は倒壊し、各地で火災コンクリート柱や鉄柱は倒壊しない。植物は一部炎上。

二～四キロ以内だと人間や動物は爆風による飛散物で負傷。輻射熱線の一部やけど。家屋半壊、木柱の一部は焼失。と原爆はとてもおそろしい核兵器です。でも、被爆者の方たちが年々少なくなってきたので、私たちのように実際に話を聞いた人が後世に原爆の話をして、二度と原爆がつかわれぬ、戦争もないような世界にしたいなと思いました。(神吉中学校 2年)

私は初めて広島に行きました。あまり広島の前爆の事は、中学校でも少ししかしていないので詳しくは分かりませんでした。でも、この広島バスツアーに行っているいろいろな事が分かりました。

バスで見た DVD では、戦争が起きて原爆が落とされて、すごい爆発を受けている所や、つるにこもっている願いや、女の子の像を作るために募金を協力してそれが作られたという 2 つのお話を見ました。とても怖かった場面もあったけれど、もっと怖かったのが原爆一つで物がこわれたり、とけたりしてボロボロになっていたのがびっくりしました。

資料館には、8月6日の事や町の事が書かれていたけれど特に印象に残ったのが5つあります。

1つ目は、放射線による被害です。私は初めて知ったのですが、それをあびるとかみの毛がぬけたり、顔にぶつぶつのようなものができたり、熱が高くなったりなる事です。かみの毛がぬけるのが、一番びっくりしました。

2つ目は、爆弾の恐しさです。回っている時に見つけたものの事です。壁があって、ガラスの片が突き刺さった後の壁は、傷が深く、型が残っていました。その時私は、すごい勢いで落ちてきて、すごい力で爆発したんだなと思いこんなに型がつくくらい激しい物なんだと思いました。とても、怖く感じました。

3つ目は、原爆でけがを負った人の事です。顔がとけたかのように真っ黒になっている人や、背中がやけどをしてふくれあがっている人を見て本当にびっくりしました。今まで私が見た事のないけがばかりで初めて知りました。そして、とても痛々しく思いました。

4つ目は、戦争で亡くなられた人の数です。私の頭に、ぱっと思いつかないくらいの方が亡くなられていて、何百人とかかなと初めは思っていたけれど数字を見て、何億と書かれていて、こんなにいらっしゃるんだと思いました。

広島の前分くらいの方が亡くなっていると分かり、悲しい気持ちになりました。

5つ目は、黒い雨です。あたってしまうと、原爆病という恐い病気になるという事がびっくりしました。そして今でもその病気と闘っている人がいると知り、早く治ってほしいと思いました。この5つが私の印象に残った事です。びっくりする事が多かったです。

実際に体験した人にも話を聞きました。語り部さんが子どもの時に体験した事と、おっしゃっていました。特に怖かったのが真っ黒になっていたお父さんです。目玉が飛び出ていて、口びるがひっくり返っている所が怖かったし、全身がひどい事になっていてびっくるする事もありました。とても勉強になりました。

私は、この2日間でたくさんの事を勉強させていただきました。びっくりした事、怖かった事いろいろありました。そして戦争は一言ではありません。戦争の後でも闘っている人、悲しみをおさえて生活していらっしゃる人、一生懸命生活してる人、さまざまな人がいらっしゃると思います。戦争が早く終わる時を願いながら、平和を目指していきたいと思います。そのために、募金を協力したり、つるを送ったりして、少しでも平和への力になりたいと思いました。

(神吉中学校 2年)

「あれが原爆ドームか。」ぼくはそのとき、案外外装はきれいだなと思った。市のイベントで、広島へいった。初めてみた原爆ドーム。回りはほきょうとかして、きれいになっていたけど、当時の緑色はきえていた。建て物のレンガがくずれかけていて、ドームの屋根はなくなっていたのがわかった。写真でみたことはあるが、直接みると、すげー有様だなと思った。そのあと、原爆の像をみた。バスの中で見たアニメで佐々木禎子さんの苦しき、あんな元気な子でも放射線にやられてしまうんだなと思った。平和記念資料館へいった。原爆が落とされた8/6は、とても暑い日だったらしくて、そんな中、原爆を落とされたら、めっちゃ熱さを感じたんだろう。僕には、想像できない。資料館には、へこんだ水筒や黒こげのべんとうばこもあった。昼ごはんをたべていたのだろうか。そんな平和が原爆によって一瞬で失われてしまったんだなと思った。人の影が焼きついた石もあった。強烈な光をあびて、人が腰をかけている所が影としてうつっている。僕は影がついているところがわからなかったけど、原爆がおちて、強い光と爆風、熱風がふいた。川やプールの中には、水をもとめて、歩いてきた、人々の死骸がうかんでいたそう。原爆をうけても、水をもとめて、歩けたのがすごいと思った。でももとめてきた水には、放射線が入っていて、それで死んでしまうらしい。歩いている人は皮ふがただれていたり、力なくたおれた人たちがいた。即死しなかった人も放射線で、髪がぬげ、原爆症やいろいろな病気をひきおこした。原爆の放射線は、白血病をひきおこす強力なものだったから、爆風もそうだけど、一番の死因は放射線なんかじゃないかと僕は思った。アニメでもみたが、三輪車にのった小さな子どもの命まで、無差別に殺した。原爆はほんとうにあぶないものだとか改めてわかるものだった。これから二度と核をつかわない、原爆が落ちることのないよう、当時の日本のような、今もそうだけど、腐った政治が治っていけばいいと思った。戦争のない平和な世界になったらいいと思う。

(志方中学校 2年)

私は、今まで広島に行ったことがなかったけれど、授業などで原爆の話を書くことがよくあって、広島でどういうことがあったのか、実際の写真などを見てみたいと思い、広島へ行きました。

まず初めに原爆ドームを見ました。写真でみたことはあったけれど、実際に自分の目で見ると、原爆一つで建物もこんなことになってしまうんだな、と感じました。写真で見た当時の様子でも十分原爆がたくさんの幸せを壊したことが伝わったけれど、実際に被害にあったものを見ると、より恐ろしさが伝わってきました。

次に平和記念資料館へ行きました。平和記念資料館は昔、広島で起きたことをそのまま見て、感じるようなところで、原爆の放射線を浴びた人や、川に飛びこむ人、ひどい火傷を負った人などの写真や絵がありました。私は当時の様子についてあまりよく知らなかったけれど、想像の何倍も痛々しかったです。一番びっくりしたことは、爆心地から数キロ離れていても原爆にやられてしまうということです。数キロ離れたところで被爆したとしても、数か月、数年は問題なく過ごせていても、放射線の影響で死に至ってしまうことがあるということを知りました。正直、爆心地から1キロくらい離れていれば大丈夫だろうと思っていたので、本当にたくさんの人の命や未来を奪ってしまったんだな、と感じました。

広島に行ってから、原爆について興味がわき、自分なりに調べてみました。自分で調べて分かったことは、被爆して放射線を浴びた人の中には、いまだに苦しんでいる人がいるということです。10年、20年も経てばもう大丈夫だろうという想像をしていたので、すごくびっくりしました。広島に原爆が落とされてから78年経った今でも、体や心で苦しんでいる人がいると思うと、心が痛み、原爆や戦争は本当にダメなことだと感じました。

今回広島に行って分かったことは、授業だけで少し知った気になっていたけれど、原爆は想像の何倍も恐ろしいということです。広島に行く前の私のように、原爆のことをあまりよく知らなかったり、話しか聞いたことがないという人には、ぜひ広島に行ってほしいと思います。今回のツアーで原爆や戦争について触れて知ることができて良かったと思います。私は、原爆を体験したことがないから当時の人の気持ち全てを理解できていないわけではないけれど、原爆や戦争についてより知った上で、未来にどうつなげていくか考えるきっかけになりました。私よりも年下の子やこれから生まれてくる子にも平和のありがたさを知ってほしいです。被爆を体験した人が減ってきている今ですが、平和がどれだけありがたいことかくらいは伝えられると思います。今回のツアーで見たこと、感じたことを未来に伝えていければいいなと感じました。

(陵南中学校 2年)

これまで原爆投下について、学校で習ったり、本で読んだりしたことはありましたが、真剣に向き合ったことがなかったように思います。これから生きていく中で、もう一度、勉強し直したいと思っていたところに、今回の募集があり、参加することにしました。

私は、今年の夏、長崎と広島で原爆が落とされた場所に行きました。そこには、当時を残した悲しい場所と、今の時代にできた新しい場所の両方があり、少し複雑な気持ちになりました。そこで、多くの犠牲者を出し、今でもその後遺症に苦しんだり、当時の傷跡に心を痛めたりしている人がたくさんいることを知りました。そして、今の私たちがいるのは、そんな苦しい時代を一生懸命、必死に生きてきた人たちが居たからだ、ということについて、改めて考えました。

今の私達にとって、『戦争』や『平和』などという言葉が身近に感じることは難しく、その重みについても分からないことばかりです。戦争が起きた理由はたくさんあると思いますが、戦争をして傷つく人が多いことは誰もが知っていることであり、戦争を許していいとも思いません。そう考える私が、平和のためにできることは、まず、今の生活一つ一つを大切に、言葉を使って自分の思いを相手に伝え、相手の考えていることを知る努力をし、これからも人との関係を作り続けていくことだと思いました。そう考える人の輪が広がっていくように、努力していきたいです。(保護者)

小学校4年生の娘が学校から「広島平和の親子バスツアー」の案内をもらって帰って来て、とてもいい機会なので家族4人で参加させていただきました。

私は小学校のころ広島で原爆ドームなどを見学しましたが、平和記念資料館は今回初めて行くことができました。

資料館には被害にあわれた方々の遺品や、被爆資料がたくさん展示されており、原爆の恐ろしさを痛感しました。

資料館の中で見た様々な展示物、原爆投下 CG 映像などから爆心地から半径2キロ以内の地域はほぼ一瞬で廃墟になったというその破壊力の凄まじさから核兵器の恐ろしさがよく伝わってきました。

2日目は、実際に被爆された語り部の笠岡さんから当時がどんなに悲惨な状況だったかを分かりやすくお話していただきました。

原爆の投下により建物や人が消滅してしまうことは本当に恐ろしいことです。

今回、広島平和の親子バスツアーに参加させていただいたことで、私たちが今の平和な日本で暮らせていることがどんなに幸せなことなのか、そして恐ろしい戦争は二度とおこしてはいけないのだということを改めて考えさせられました。

このような貴重な体験をさせていただき有難うございました。(保護者)

今回このツアーには家族で参加させていただきました。私も娘と同じ年ごろに平和記念資料館を訪れたことがあります。記憶がだいぶ薄れていたのですが、親子で平和について学ぶ機会になればと思いました。

平和祈念資料館には驚くほどたくさんの外国の方がいて、様々な国の人が原爆に関心を持っているのだと感じました。私の記憶に残っている被爆再現人形はもう今は展示されていませんでした。その代わりに、多くの遺品や写真などが展示されていました。娘が怖いと言って目を背けた写真もありましたが、被爆前後の広島市の街地映像を立体模型に投影したものや、佐々木禎子さんが折った折り鶴、しんちゃんの三輪車を食い入るように見ていました。資料の数々は、見ただけで辛くなるものがたくさんありました。日常が一瞬にして吹き飛ばされた恐怖。地獄のような光景。その後も続く放射能の影響。どこの国の人であってもこんな思いをしてはいけないし、させてはいけない。ましてや未来のある子供達を大人の都合で戦争に巻き込んではいけないと強く感じました。

二日目には語りべの笠岡さんのお話が聞けました。被爆体験者の方のお話を聞くのは初めてで、とても貴重な経験となりました。小学生でも分かりやすいように話して下さり、子供達も真剣に聞き入っていました。実際に経験された方の話は生々しく、想像もつかないくらい悲惨な出来事だったのだと感じながら聞いていました。

4年生の娘にはまだ少し早いかと思った今回のバスツアーでしたが、参加出来て本当によかったです。改めて戦争の悲惨さを学び、また平和のありがたさを再認識しました。貴重な経験をありがとうございました。(保護者)

八月六日、広島を中心に原子爆弾が落下されました。地表は三千～四千度になったということです。広島平和記念公園や資料館を訪ねるのは小学4年生の時と今回の二回目です。前は学生の時、小学校の皆と今回は家族(主人、息子(小学4年生)、私)三人です。当時の資料館はやけどをおったろう人形の展示があり、それがリアルで小学生の私には、おそろしいものだと体感しました。今回展示は内容が変わっており、当時の写真、資料、デジタルの展示など爆弾投下前と後の様子を映像で体感することができました。資料館では外国の方達も沢山いらして日本人だけではなく興味をもって資料に目を通していただくと感じました。

被爆を体験された笠岡貞江様よりお話を頂きました。一九四五年八月六日当時、笠岡さんは女学生(12才)でした。自宅にいた際に爆風でガラスが割れ倒れて気を失いました。祖母と共に防空壕で過ごし落ち着いてから外に出ると状況がわからず、逃げ帰ってきた人々から話をきいて爆弾だと知ったようです。両親を原爆で亡くされ、帰ってきた父親は全身大やけどで体は真っ黒で誰だかわからなかったそうです。皮フがただれ、くさってきてうじがわいたそうでおいもあったようです。看病の後、三日後の八月九日に息をひきとり、兄と火葬して見送ったそうです。当時は病院で軽症の人しか看てもらえず、重症の方は病院の中にも入れなかったそうです。

38万人の人口が16万人の死者により減ってしまい、原爆のおそろしさはその後白血病などによって人々を苦しめ続けます。今の平和な世の中がずっと続いていく様に、戦争のおそろしさ、おろかさ、何の罪のない人々を一瞬にして消してしまう原子爆弾の使われることのないように願うばかりです。今回のお話で子供達、大人も含め、平和の大切さ、学びにつながる貴重な時間を過ごすことができました。(保護者)

この度、広島平和の親子バスツアーに参加させて頂いた理由は2つあります。

①小学4年の息子に広島であった悲惨な出来事を出来るだけ身近で体験させたかった。

②小学生時代に訪問した広島と現在の自分が訪問する広島とで、どのように捉え方が変わっているか

を確認したかったからです。

原爆ドーム、広島平和記念館、佐々木禎子さんの原爆の子の像。どれも想像を絶する辛く苦しい出来事ばかりでした。小学時代の私は、作られた昔話をみているような悲しい、可哀そうといった感情だけだったと思います。

今回、資料見学をしている最中に昭和 20 年 8 月 6 日にタイムスリップし、まるで自分がその場にいるかのような錯覚に陥りました。何と表現していいかわからない感覚でした。

特に心に残ったのは、被爆体験講話、証言者の笠岡貞江さんの話でした。

・被爆時 12 歳で食べるものはなく、現在の小学4年生くらいの体型であり、空腹すぎて頭がまわらなかった。

・人口 35 万人中、14 万人が亡くなった。

・薬が無い為、火傷の処置に機械油を使用したこと。

・白血病等いつ発症するかわからない恐怖が一生付きまとうこと。

これほどまで酷いアメリカの行為は虐殺です。しかし、笠岡さんはこう語ってくれました。

「アメリカを恨んでいたが、たくさんの支援をしてくれて、アメリカが憎いから原爆が憎いという心境が変わった」

さらに、笠岡さんはこう言われました。

「70 年草木が生えないと言われていたが、草木が生えだし、広島の人達の生きがいになった」

私の怒りや悲しみなどのネガティブな感情は、この言葉を聞いて一瞬で晴れ渡りました。

この広島平和の親子バスツアーで改めて、平和であることの大切さを次世代に繋いでいくことが、私の役割だと実感しました。(保護者)

今回広島平和の親子バスツアーに参加して、約十数年ぶりに原爆ドーム、平和記念資料館などを訪れました。以前訪れた時の記憶はうっすらしか残っておりませんでした。まず最初に驚いたのは外国の方の多さです。こんなにたくさんの外国の方が日本の戦争、原爆について興味を持ち、悲惨さを知り、平和について考えてくださっているのだろうと思うと心強い気持ちにもなりました。

原爆ドームではボロボロの三輪車や服、弁当箱などを見ました。けがや火傷をしている方の写真、放射能の影響で髪の毛が抜けた方の写真なども見ました。この物を使っていた持ち主や写真に写っている方々は一瞬で幸せな日常が奪われたのだろうと思うと辛く悲しい気持ちになりました。

また、二日目には語り部の方のお話を聞くことができました。被爆者の話を直接聞くのは、中

学校の修学旅行で長崎を訪れた時以来でした。直接語り部の方から聞く話は、資料館でみたどの文章や写真よりも心に残りました。大やけどを負った父親の看病をし、看取り、お兄さんと自分たちの手で遺体を焼いたお話は、どれだけつらかっただろう、到底私に感じたことのない感情だったのだろうと思いました。なんとか助かったとしても、その後死ぬまで一生放射線の影響を心配しながら生きていかなければならない被爆者の気持ちを思うと、原爆は本当に恐ろしいものだと思います。

語り部の方の「日本も中国に攻めたり悪いことをしている、アメリカだけが悪いのではない、アメリカが憎いわけではない。原爆が憎いのです。」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。こんなにつらい体験をしたのに、アメリカを恨んでいないと。恨んでもそこからは悲しみの連鎖しか生まれないのだろう、だから原爆の恐ろしさをみなで知ることが一番大事な事なのだろうと思いました。終戦から七十八年、私が直接原爆のお話を聞ける最後の機会かもしれないと思い、貴重な体験をさせていただき、本当によかったです。少しくすれかけていた戦争の怖さを再認識することができました。

最近ではウクライナとロシアの戦争があり、以前よりも戦争が身近に感じるようになりました。原爆の恐ろしさを再度感じ、戦争を繰り返してはいけないと、少しでも多くの人に語り継いでいかないといけないと感じました。(保護者)

今回バスツアーに参加しようと思ったのは、小学校から案内をもらった娘から、行ってみたいと言われたことがきっかけでした。私自身も、子供の頃長崎原爆資料館へは行ったことがありましたが広島は、初めてでした。

実際に、原爆が落ちた場所を、娘と歩くのはとてもリアルで、現在と同じ様に、家族と過ごす人、仕事へ向かう人、学校へ行く人たちがいて、その人々の、命や生活が一瞬にして、うばわれたことを映像や物を通して目のあたりにした時は、とても衝撃でした。

たった 12 才で被爆され、ご両親を亡くされた、笠岡さんのおはなしは、とても辛く胸がしめつけられる気持ちでした。子を持つ母として他人事とは思えず胸に残りました。隣に座る娘もいつになく真剣な表情で、一生懸命に話を聞いていました。まだまだ幼い娘ですが、一緒に色々なことを感じ考えられたことは、良い経験となったと思います。

帰宅し、家族にも戦争について話をし、今こうして生きている当たり前の日常の尊さを感じることができました。不安がたくさんある世界事情ですが、平和の大切さやありがたみを忘れずにすごしていきたいと思います。(保護者)

まず最初に見た原爆ドームは、被害を受けたままの建物がそのまま残っていて、その歴史を感じました。

原爆の子の像を見た時は、若くして亡くなった禎子さんの平和を願う気持ちが目に浮かんできて心に響きました。

広島平和記念資料館の中の展示物は、戦争当時の残酷さを感じられる物ばかりでした。

翌日は、被爆者の話を聞くことができました。被爆者の体験や思いが伝わり、胸が痛くなりました。

戦争という恐ろしい体験、原爆の熱風と爆風によって、一瞬のうちに多くの尊い命が奪われた辛く悲しい体験は、想像もつかないような出来事です。今回のバスツアーで、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さ、また平和を守ることの大切さを親子で学ぶことができました。

世の中から戦争が無くなり、この世界が少しでも早く平和へとどり着くことができるようになってほしいです。(保護者)

今回、広島平和の親子バスツアーに参加しました。

広島市に行くのは4回目ですが、平和記念資料館に行くのは初めてでした。平和記念資料館では様々な資料を目の当たりにし、原爆被災者の悲惨な状況を知ることができました。

黒焦げになっている人の写真や建物に影としてのみ残った人の痕など衝撃的な資料があり、人が人でない状況に陥っている様子は、まさに地獄絵図でした。

恐ろしさを感じると同時に、このようなことは二度と起こしてはいけないと思いました。

また、被爆体験講話で実体験に基づいた貴重なお話を聞くことができました。

原爆により両親が亡くなるなど幸せな生活を一瞬で破壊された話を聞き、心が痛むと同時に、戦争へのやるせない思いがわき上がりました。

平和な日常を過ごしていると、平和であることが当たり前であるように思っていましたが、わずか八十年弱前には、戦争により地獄のような状況であったことを改めて耳にして、平和の大切さを痛感しました。

平和な世の中にしていくためには、戦争の悲惨さを風化させずに後世に伝えていくことが大事だと思います。

幸い平和記念館には、海外からの来館者をはじめ大勢の人々が訪れていて、皆が真剣な眼差しで資料に見入っているのを見て、戦争の悲惨さが伝わっているのを感じました。

自分自身においては、戦争時の状況を忘れないようにし、機会を見つけて本日学んだことを皆に伝えていこうと思いました。(保護者)

30年か40年ぶりに行った「広島平和記念資料館。」昔とずいぶん変わったなあと。昔の記憶すぎて、本当はどうだったか確かではないけれど、原子爆弾「リトルボーイ」と「きのこ雲」の提示や映像がやたらと目に入ってきた印象が残っている。

平和について考える時。この感想文の下書きを考えて戦争について考えてみる。戦争なんて愚かで悲惨でしかない。考えれば考えるほど、なぜ戦争をするのか、平和が一番大切ではないのか、子どものような疑問ばかり出てきて、憤りのような感情…私自身が平和じゃないな…。

小学4年生の娘がこのツアーに参加したい、原爆ドームが見てみたいと申込み。子ども達を連れていきたい場所だったし、私もまた何かを感じ学びたいと思いました。

一番このツアーで印象に残っているのは、語りべさんの講話。実際に体験された方のお話を聴くのは、本当にリアルで心に響きました。戦争は人が人でいられなくなる。感情がなくなる。心を失う。

ひとりでも多くの人に聴いてもらいたいし、残して行ってほしいと思います。

複雑でからみ合う世界。平和のためにできることは、知ること考えて学ぶこと。ひとりひとりが、自分の心が平和であること。小さな平和の集りが大きな平和につながっていくと思います。

(保護者)

親子で広島を訪れ、戦争と平和、そして原爆について学び考え、子供と話し合えたらと思いこのツアーに参加させていただきました。

私は小学六年生の修学旅行にて原爆ドームや平和記念資料館を見学しました。その当ても資料館の写真や展示物を見て目を覆いたくなるような気持ちになったことを思い出しました。大人になって改めて見学したり説明を聞き、原爆の子の像で折り鶴が飾られている理由、平和の灯がともし続けられている理由などをほとんど記憶しておらず恥ずかしく思いました。そして戦争は二度と起こしてはならないと戦争を知らないのに理解しているように思っていました。ツアーに参加して、資料館の資料の数々、語り部の方の講話を聞き、改めて戦争、原爆の恐ろしさ、悲惨さを感じ考えさせられました。

私は今回初めて被爆者の方から直接お話を聞きました。当時十二歳だった笠岡さんは大やけどを負って声でしか判断できないほど変わり果てた姿となってしまったお父さんの看病をし看取り、お兄さんと一緒に火葬したそうです。十二歳の頃の自分に同じことが出来たのだろうかと考えました。笠岡さんの同級生など友達も大勢亡くなりました。

「当時の子供にも保育士さんになりたいなどと夢があった。死にたくて死んだ人は一人もおらん。原爆が命と一緒に夢も希望も未来も奪っていった。みなさんにも夢があると思います。みなさんはその夢を叶えて下さい」と、子供たちに語りかけていました。私は笠岡さんのその言葉に涙がこぼれました。死にたくて死んだ人は一人もいない、本当にその通りだと思います。原爆は生き残った人にも後遺症などで苦しめました。また長い年月が経ったあとに発病して亡くなった方もたくさんいます。そんな恐ろしいものをどうして…そんな思いで胸が苦しくなります。

今回お話をして下さった笠岡さんは今年九十歳、こうやってお話をして下さる方、原爆、戦争を経験した方の高齢化が進み、年々お話を聞く機会が少なくなっていくと思います。私たちは「あの日に何があったのか」と知り、戦争、原爆の恐ろしさ、悲惨さ、命の大切さを考え、伝え続けていくことが大事だと思います。そして、私たちが生きていく上で大切なことは何かについて考えられたらと思います。

ツアー後に子供とロシアとウクライナの戦争のニュースを見ました。戦争は昔の話ではないよと話しました。そして「平和をつくるのは人間だよ。それを壊すのも人間。違う国に住んで違う言葉を話していても、平和を願う気持ちはみんな同じだよ」と話をしました。

今回ツアーに参加して子供と一緒に戦争、原爆について学び考えることが出来、平和の大切さ

に気づかせていただきました。

ありがとうございました。(保護者)

今回、広島平和ツアーに参加して、戦争や原爆の悲惨さ、平和な日常の尊さを改めて考える良い機会となりました。

小学校・中学校で戦争について学んだ事は、どこか「歴史の一部」のような感覚でいましたが、実際に戦下を生き、原爆の恐ろしさを体験された方のお話は、戦争が現実起こった事で、その悲惨さや、大変な数の人々が犠牲になった事を再認識する機会となりました。パロディのように真っ黒で目玉だけぎょろぎょろとした人の絵が、事実このような状態になってしまった人の様子だったり、爆風で粉々に吹き飛んだガラス片が刺さったとのお話は、どれも現実離れしていて、それでもそれが事実であるという、何とも言えない気持ちになりました。本当にこの史実は、私たちは決して忘れてはいけない事だと強く思います。

平和記念資料館でも、展示物を通して、その時代を生き、人たちの思いを改めて知ることができました。原爆の恐ろしさを見せつけられる焦げた弁当箱や三輪車はもちろん、戦下で離ればなれになってしまった家族へあてた手紙など、必死で生きる人々の思いには胸を打たれました。また、特攻隊のように、死を覚悟した人の遺書を見ると、どんな気持ちだったんだろうと悲しくなりました。戦争は破壊と悲しみを生む以外に何があるのだろうと思っていました。

多くの犠牲を出した戦争を経て、私たちは高度文明社会を何不自由なく生活しています。それでも地球上では、今なお戦争をしている国もあり、町を破壊し人を殺しているのが事実です。私たち一人ひとりが、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを考え、そのことを伝えていくことが大切だと感じます。(保護者)

私は、今回この「広島平和の親子バスツアー」に参加して、はじめて広島に行きました。今まで広島に行く機会もなく、このツアーの募集を見て、「人生で一度くらいは、広島に行かなあかん」と家族に言われたことをきっかけに息子と二人、参加を決めました。

バスで、広島に到着して、思ったことは、「思ったより都会だな」ということでした。広島に行く前から広島で何があったのか、歴史的な意味では、大雑把にですが、知っていました。実際に行ってみて、「こんな都会のどこに原爆ドームがあるのかな」とその姿を見るまで想像出来ませんでした。着いた時は、おどろきました。「こんな街の近くにあるの？」ということにです。原爆投下当時は、どうだったのかと思っていた所、バスガイドさんが投下当時もたくさんの方が住む繁華街だったということを教えてくれました。こんなに人がたくさん住む街中でどうして原爆なんてものを投下することになってしまったのか、それを思うととても胸が痛みました。実際に行って、肌で人々の生活や営みを感じて、よりその悲惨さを感じました。

私にとって、戦争も原爆投下も親の世代ですら経験のない世代になっています。私の息子たちの世代になればもっとそうなります。そのこともあって、広島に行くまでは、どこか他人事で、遠い昔の話で、場所的にも遠く現実ではないような感覚でした。現代でもロシアとウクライナの

戦争や北朝鮮、他も核の問題もあり、決して他人事ではなく、自分や自分の周りにも関係することとして、戦争の悲惨さを知ること、そして伝えていくことの重要性を認識しました。広島に行くことで、そのことを考えられたこと、知ることが出来たこと、感じる事が出来たことにとても本当にとても貴重な体験になったと思います。また広島の路面電車が原爆投下後、3日で走り始めたということも知り、人の力強さに希望があるのだなと思いました。(保護者)

今回初めて平和記念資料館を見学してきましたが、館前には長蛇の列の大半が外国人の方々でした。被爆国の日本人が少ないのは、驚きでした。外国の方はウクライナ戦争や各国の紛争で戦争が日本より身近にあるのか、戦争に対する意識や考えが日本人に比べて、違うのが表れていると思った。現在では、戦争が80年前の遠い出来事のようにになっており、当時の原爆で被爆した写真などインターネットなど出てこないのも、原子爆弾に被爆したらどうなるのかすら知らない若者も多いと思うのでこの出来事を風化しない為にも、教育と伝えていく事が大切です。

小学時代の教室に「あの日、広島と長崎で」の本があり昼休みに読んだのですが、灰化した死体の数々を目にしてショックを受けました。その本が平和資料館の売店に置いてあり35年ぶりに手に取り読みましたが、小学生の時の記憶がよみがえり改めて、広島・長崎でおきた事実を後生にも伝える必要があると思います。

今回の様なバスツアーを開催して少しでも小中学生に戦争の恐ろしさや悲惨さを知ってもらうのにはよいツアーなので、継続して開催していけばよいと思います。(保護者)

私にとって平和教育を始めて受けたのは小学生の時で当時、関連の映画を鑑賞するだけのもので、戦争はもちろんのこと原爆の恐ろしさはあくまでも客観的なものにすぎませんでした。しかし今回のツアーでの資料館見学、笠岡さんの講話を通して戦争を知らない私達の世代が次の世代に「原爆」ひいては「戦争」の恐ろしさ・無意味さを伝えていかなければならない使命を課せられたような気がしました。笠岡さんの講話での「見る・聞くだけではなく伝えて下さい」の言葉が忘れられません。現在、私たちは好きなものを食し、欲しいものも努力すれば手に入る環境下にあります。このことを当たり前と捉えず、これまで平和を導いてくれた先人に感謝し、その教を次の世代に受け継いでいきたいと確信しました。世界的に見れば「真の平和」はまだ遠いですが、一日も早く「核のない平和」が訪れることを願い、二度と戦争の惨禍が起こらないようにする当事者として生きていきたいと思います。この度は貴重な体験の時間を与えていただき本当にありがとうございました。(保護者)

今回、広島平和の親子ツアーに参加をしようと思ったきっかけは、以前から息子が小学校高学年になった時に、一度は広島に行って戦争や原爆の恐ろしさについて学んでほしいと考えていたところタイミングよく、今回ツアーの案内を入手しました。そして参加を申し込んだところ当選し参加させていただくことになりました。私自身は、広島は三回目で一回目は、小学6年生の頃でした。一番印象に残り衝撃を受けたのは「被爆再現人形」でした。皮膚がとけて垂れている

のを見て「いったいどういうことなのか。地獄…」何を見ているのかすぐに理解できなかったのを覚えています。

大人になってからの三回目の原爆資料館とかたりべの笠岡さんの当時の話を聞いて感じたことは、子どもの頃に資料館で衝撃を受けた「被爆再現人形」は、現実とは全く違ったもので、更に恐ろしい情景が広がっていたことが当時の写真（皮膚が黒焦げになって目がむき出しになっていた写真）や笠岡さんの話から伝わってきました。笠岡さんの話で特に印象に残った所は、「父親が亡くなり火葬している時に沢山の火の玉を見た。原爆で亡くなった中には、子ども達もいて将来の夢がある中突然に命を奪われた。夢を叶えたくても叶えられなく無念のままなくなったけど、あなた達は、生きている。生きている限り叶えられる。」その言葉に、私の小さな悩みは吹き飛び悩んでいることに恥ずかしく感じました。突然原爆で命を奪われた方達のことを考えると立ち止まらず前を向いて歩こうと勇気をもらいました。

今回、資料館でみて感じたことやかたりべの笠岡さんの話は忘れず引継ぎ沢山のの人に伝えて戦争や原爆の恐ろしさについて伝えていきたいと思いました。伝え続けることが大事だと感じたのは、約三十年前、見学者が少なく当時は人込みもなくゆっくり落ち着いて見て回れた原爆資料館は、現在では海外の方たちも来訪され、なかなか前に進めないほどの沢山の方達が見学に来られていました。

今回三回目の原爆資料館に行くまでは、何をしても人の気持ちは変わらない、戦争したい人はするだろうと思っていました。でも、沢山の海外の来訪者をみて、私が考えていたことの間違いに気づきました。話伝え続けること諦めないことで、少しずつ少しずつ、人の気持ちを動かし、広島の人たちの思いが伝わった結果が今に至るのだと。

私も、一人でも恐ろしいことを考える人を減らす為に、原爆・戦争の恐ろしさを伝えていきたいと思います。（保護者）

今回このバスツアーに応募したのは娘に戦争の無意味さ、原爆の恐ろしさを知ってほしかったからです。いつかは娘を連れて訪れなければと考えていた広島ですが、近いようではなかなか行く機会に恵まれず、家族旅行で重点的に原爆（戦争）関連施設ばかり巡るのも少し重たいかなと思っていたので、このツアーは願ってもいない機会でした。

私の母は原爆に関して割としっかり教えてくれ、子どもの頃に 10 フィート運動の映画を共に視聴したり、原爆資料館に連れて行ってくれたりもしました。通っていた中学校も「ひめゆりの塔」を生徒全員で鑑賞したりと戦争について真剣に取り組んでいたように思います。まだ戦争体験者の多い時代だったからか原爆や戦争の恐ろしさを肌で感じやすい時代であったかもしれません。今は戦争を知る人も減り、世の中の流れでテレビで凄惨な映像を流し辛くなっているからか原爆の恐怖が子ども達の間で薄らいでいるような気がします。そもそも原爆が何か、どういう物で使用するとどうなるかという事すら余り分かっていない気がします。そんな中でのこのツアーで娘は娘なりに色々と感じ考える事ができたようです。

私自身、原爆ドームを初めて見たのは私が 10 代の頃の家族旅行です。その時は街の中に忽然

と現れ、普通に現代に溶け込んでいる姿に驚きました。そして今回も暑さの中でポーッと歩いていたら通り過ぎてしまいそうな静かな佇まいで私達を迎えてくれました。広島の人々にとってはそこに在るのが当然なのでしょう。むしろその静けさがかえって原爆の虚しさを増幅させている気がします。

平和記念資料館は長蛇の列ができていました。そして並んでいるのは半数ほどが外国人でした。ウクライナとロシアの戦争で核の使用が現実味を帯びてきている、それを踏まえて今年 G7 の首脳達が訪問した事が大きな要因の一つでしょう。取っかかりが何であれ、世界の人々に足を運んでもらう事がまず大切です。ここで何かを感じ、帰ってから周りの人々に原爆の凄まじさを伝えてくれればよいと思いました。資料館内部は非常に分かりやすく展示されており、リニューアル前より向き合いやすくなっていました。焼け焦げた三輪車や弁当箱、衣服などは子どもにもダイレクトに伝わる展示物でおそらく娘の記憶にずっと残り続ける事でしょう。

一泊二日で要点を絞ったツアーを組んでくれたため、非常に効率的に巡る事ができました。娘が真剣に展示物を見たり語り部のかたのお話を聞いたりしていた姿にツアーに参加してよかったと思いました。(保護者)

今回、私(母親)と中学校と小学校の子どもの3人で広島平和の親子バスツアーに参加しました。私は20年近く前に広島へ行ったことがあり、原爆ドームや平和記念資料館を見たことがあったはずなのですが、恥ずかしながら、当時に見たことをほとんど覚えておらず、また、子どもも広島へ行ったことがなかったので、平和学習の良い機会だと思い、ツアーへの参加を決めました。

1日目は原爆ドームや平和記念公園、平和記念資料館、追悼平和祈念館を見て回りました。夏休み最後の週末とあって、資料館は混雑していました。1945年8月6日に広島に一発の原子爆弾が落とされ、無差別に多くの命を奪いました。そして、何とか生き残った人々の生活、人生をも一変させてしまいました。資料館には、被爆者の遺品や証言の記録、様々な資料などが展示されていました。一発の原爆投下をもたらす恐ろしさが十分に見て取れました。原爆の熱線や爆風を直撃し、命を落とした人々。当時何とか命だけは助かったものの、その後の生活や健康状態に大きな影響を受けた人々。放射線の影響により、被爆から年月を経ても様々な障害を引き起こす恐ろしさ。被爆者の数だけ、それぞれに違う多くの苦しみがあったと理解できました。

2日目はまず被爆体験講話を聴きました。笠岡貞江さんは被爆時12歳で、爆心地から3.5kmの自宅で被爆し、両親を原爆で亡くした体験、原爆が落とされた広島の様状を語られました。原爆を落とされるまで広島には爆弾を落とされたことがなかったこと、被爆した父親を見ても原爆で焼けた皮膚が黒くなってしまって外見では本当に父親なのかどうか分からず声でしか分らなかったこと、亡くなった父親を自分たちで火を焚いて吊ったことなどを語られました。私自身、実際に被爆者の体験講話を聴いたのははじめてで、その内容には衝撃を受けました。その後、呉市内にある大和ミュージアムを見学しました。呉には海軍の工場が多くあり、戦時中は軍港として栄えていたものの、そのために激しい空襲を受け、たくさんの爆弾を落とされて壊滅的な被害

にあったこと、また、戦後は製鋼と造船技術を生かして世界最大のタンカーや船舶を製造している呉の歴史を知ることができました。

この2日間のツアーを通して、広島に歴史に触れ、原爆や戦争の恐ろしさを学ぶことができました。また、どんなに困難と思える状況でも復興へと歩みを進める人々の強さには心を打たれました。日本は世界ではじめて原子爆弾を投下された唯一の戦争被爆国ですが、このような多くの犠牲を生み出してしまう戦争、核兵器の使用は断じて許されないと感じました。この経験を忘れることなく、日々の平和のありがたみを感じ、平和な未来に繋げていければと思います。一人ひとりの思いや行動が、平和な世界の実現に繋がることを心から願います。(保護者)

今回このバスツアーの企画を知ったのは、子供が学校からもらってきたプリントでした。私は小学校の修学旅行で広島を訪れたことがあり、今年行われたサミットの開催地が広島であったことなどから、「もう一度広島を訪れたい」と思い、子供を誘って参加を決めました。小学校での記憶は友達と一緒に過ごして楽しかったという記憶だけしか残っていませんでした。だから今五年生の息子と行って学ぶことがあるのだろうか、という不安がありながらも参加したのです。

一日目に原爆ドームや広島平和記念公園、平和記念資料館を訪れました。平和記念資料館で展示してある三輪車や原爆の子の像の禎子さんのエピソードについて、バスの中でビデオを見ていたので、戦時下でも普通の生活を送っていた子供たちの日常が1個の原爆投下でどう変わったのかがよくわかりました。原爆の子の像は、ただ立っているのではなく、資料館のさびた三輪車はただ展示しているのではなく、私達に戦争の愚かさや原爆の恐ろしさを語っているかのように感じました。資料館でもう一つ印象に残ったことがあります。それは訪問者の半分が外国人であったことです。日本は原爆をおとされた世界で唯一の被爆国です。この悪い体験を世界中の人々に見てもらい体感してもらうことがこの資料館の意義なのではないかと痛感しました。

二日目は実際に被ばくされた方の体験を聞くことが出来ました。広島に原爆が投下されてから78年がたち、実際に被ばくされた方の体験を聞くことは貴重なことになっています。体験者の方は12歳で被爆され、現在90歳。杖などを使わず、マイクも使わずとてもお元気な方でした。ご自身が被ばくされ体に傷を負い、家族を失い大人になれば結婚の差別を受け、被爆者であったご主人を被ばくによるがんで若くしてなくなっていました。人の人生にこんな悪い影響を与え苦しませた生の声を聴けたのは本当に貴重な体験だったと思います。

私はこのツアーに参加して、戦争の愚かさを痛感しました。人間は高等な頭脳を要し、会話ができます。どうして戦争になる前にはなしあわないのですか。人種や国が違えど同じ人間ではないのですか。人はこの世に生まれてきた事すら奇跡なのです。その一人一人に心や思いがあり、人生や家族があるのです。同じ人間が住んでいる頭の上に爆弾が落とせますか。普通は落とせませんよね。しかし落とせてしまうのが戦争なのです。私や子供たちは戦争を知りません。日本に原爆を落とされたのはもう過去の事です。しかしこの過ちを繰り返さないという誓いは永遠に持ち続けなければいけないのです。いつか戦争のない平和が当たり前の世界になりますように。

今回は子供と一緒に大変貴重な体験が出来、参加して良かったです。(保護者)

私は、小学5年生の子どもと二人で訪れました。学生時代に平和運動に参加していましたが、広島に来るのは初めてでした。

資料館には、被爆者の写真や遺品が数多く展示されていました。写真は今のように気軽に撮影できるものではなかったためか、多くが「ハレ」の日を撮影したもののよう感じました、多くの写真が笑顔で、家族や友人との幸せな日々を想像させるものでした。しかし、原爆が一瞬にして一人ひとりの幸せを奪ったことを改めて知ることができました。

遺品として学生服も展示されていました。原爆によって焼けて破れてぼろぼろになっていました。加えて、年齢にしてはサイズがあまりにも小さく感じました。戦争によって満足な食事を摂ることもできなかったのかと想像しました。他の遺品の中にはお弁当箱があり、ご飯粒が焼け焦げてそのままになっていました。戦時中の食糧難の時代にお弁当を作った家族がどのような思いで、子にお弁当を持たせたのかと想像すると、戦争と原爆がささやかなお弁当に込められた普段の暮らしの幸せを奪い去ったことがわかりました。

語り部の笠岡さんからお話を伺いました。笠岡さんは、原爆投下の日、偶然にも学校を休んだため、被爆しながらも生き残ることができました。しかし、登校した友達は何人もお亡くなりになったそうです。自分の友達が若くして何人も亡くなることを想像すると、私自身は生きる気力をなくしてしまうと思います。さらに笠岡さんをはじめとする被爆者を苦しめたのは、周囲の人の死、病や後遺症だけではなく、偏見や差別までもあり、結婚にも障ったとお話でした。笠岡さんは、同じ被爆者と結婚しました。しかし、その夫も若くしてがんで亡くされたそうです。復興する中でも家族を亡くすという悲しみもさらに背負わされたのです。ここからは私の想像ですが、当時は今と違い、今以上に女性が働いて生計を立てることは厳しかったことから、笠岡さんはそうとうご苦労されたのではないかと思います。

笠岡さんの説明スライドに、倒壊した建物に挟まれて動けず助けることができなかつた方を絵にしたものがありました。そこには「助けてあげられずにごめんなさい」と書かれていました。被爆者の中には、生き残ったことへの自責の念まで持ちながら生活した方もあることを知りました。

また、広島戦災育児所について企画展示されていました。今なら、児童養護施設にあたると思いますが、原爆で保護者を亡くした子どもたちを養育していました。子どもたちが大きくなり、退所して就職する際には、身元引受人がないことを理由に就職にも障ったとありました。戦争や原爆、差別や偏見で社会的自立をも阻まれていたことを初めて知りました。

最後に、笠岡さんが今回のことを周囲に伝えることが大切と話されていました。私自身が今すぐできることなので、家族や友達等にツアーに参加したこと、学んだことを伝えたいと思います。それから、今後も関心を持ち続けたいと思います。(保護者)

今回バスツアーに参加させてもらって、ありがとうございました。

たまたま広報かこがわを見ていたら、広島に行き、原爆ドームや平和記念資料館など回り被爆体験講話を聞く事が出来るので、子供に良い経験になると思い応募しました。

平和記念公園や平和記念資料館は、海外の人の多さに驚きましたが、世界の人たちが関心を持っている事は、良い事だし私自身も勉強しなければいけないと思いました。

資料館の中では、被爆品や写真、写真の無い物は絵で書かれていて、戦争の悲惨さや、原子爆弾の恐ろしさがわかります。子供は怖がっていましたが、実際にその場にいた人の事を考えると心が痛みます。

私は奈良県で、生まれ育ったので戦争の事は、あまり聞かなかったし。食べ物は無かったと言っていました。空襲で逃げ回ったとかお婆ちゃんからも聞いた事は、ありませんでした。奈良で生まれたので、あまり戦争遺産にもふれていませんでした。

被爆体験講話では、写真や絵を付けて話してもらって、生々しく心が痛みました。被爆により、まっ黒になった人の看病や、川の中の死人、死人の山など小さい時に、小学校ではだしのゲンを見ていましたが、まんがの事が実際にあったんだと思うと悲しいです。

お婆さんが言っていたように、アメリカに原子爆弾を落とされましたが、日本も悪い事をしていたと言っていました。本当にその通りだと思います。

自国に無い物が欲しいから、争いや戦争が起こるけれど、その物を得る為に人が死んだらだめだと思います。戦争は絶対にしてはいけない事だと思います。今もウクライナとロシアが戦争をしていますが、少しでも早く終わるように、心から祈っています。(保護者)

今回 私達親子は広島での平和に関する場所に訪れることができる貴重な機会をいただきました。

まず訪れたのは平和記念公園でした。広大な敷地で「原爆の子の像」や「平和の鐘」「原爆死没者慰霊碑」があり、その雰囲気にも心が引き寄せられました。特に原爆の子の像は被爆した子供たちの無念さと平和への願いが込められていて、胸が締め付けられる思いでした。

次に平和記念資料館に向かいました。ここでは被爆した人々の体験や証言、遺品が展示されており、その苦しみと戦争・原子爆弾の恐ろしさを肌で感じることができました。被爆し寝込む子供達の写真を見た時、もう二度とこんな事があってはならないと強く思いました。

平和記念資料館を出て原爆ドームへ歩きました。原子爆弾の爆発した瞬間が凍りついたかのようなその姿は、言葉に表しがたい悲壮感、戦争の無残さを感じました。

翌日に被爆者の笠岡貞江さんの体験した事をお聴きしました。十三歳の八月六日、洗濯物を干し終え部屋に入った所、空がオレンジ色に光り、とても綺麗な光だと思った瞬間に爆風で窓ガラスがはじけ飛び、しゃがんで避けたまま少しの間、気を失っていたそうです。あまりの出来事に何が起きているのかわからなかったそうです。それが爆弾だとわかり、最初は全身やけどで真っ黒で誰だか分からない父が帰ってきて、薬などなく、イモをすりおろしたものを湿布代わりに使ったそうです。ケガの酷い人は病院で診てもらえず多くの人が水を求め、川に入りそのまま川から上がれなくなり亡くなってしまいました。そのまま海に流れた遺体は、港の船の間にプカプカ浮いていましたが誰もどうする事もできませんでした。笠岡さんをご両親を原子爆弾で亡くしました。それでも憎むべきなのは原子爆弾なのだと。爆弾を投下したのはアメリカなのだけれど、アメリカにもたくさん良い人がいて、優しい人がいる。そんな国を憎んではいけない。笠岡さん

のお話はとても生々しくでも確かにあった現実で、そんな地獄のような体験をしてきても、それを糧とし、世界平和のために努力している姿を見ていると、自分も何かしなければ、と思いました。小さな事でも、少しの事でも、始めなければいけない、出来る事から。

長男と二人で参加させていただきました。特に平和記念資料館では普段よく悪ふざけを言う息子が展示物に見入り、説明文をしっかり読み、かなりのショックを受けていた様子でした。戦争、原子爆弾、人に死を身近に感じられたのではと思います。親子共々とても勉強になり、有意義な時間が過ごせました。

5歳の次男がもう少し大きくなったら今度は家族全員で広島に行きたいと思います。

(保護者)

今まで何度か平和記念資料館へ行った事がありますが今回改めてこの原子爆弾がどれだけ残酷な物であるかを知る事となりました。

私は高齢者と関わる仕事をしており幾度となく戦争の話を聞いた事がありますが、私達の住んでいる所は戦争の被害は余りなかったらしく九十代女性の方から聞いた話では当時十代で加古川の志方に生まれ住んでおり姫路に焼夷弾が落ちると明るくきれいに見えたと話され、また九十代男性の方からは学生の時少年飛行兵となり播磨の海を飛び回っていたが戦地に行く事はなかったと話されお二人共に食糧などには困らなかったと聞きました。

今回ツアーの内容の一つである被爆体験談を初めて聞き、その悲惨さは想像を絶する物でした。

一つの原子爆弾により何万人という尊い命が一瞬にしてなくなり、また原子爆弾の放射能をあびると長年の間身体に残り続け元気な人でも何年か後には放射能による症状を表し亡くなってしまいう目には見えない恐ろしい物である事。被爆体験談を話してくれた方は当時十二歳で原子爆弾により両親を亡くされどれだけ大変な思いをされたか...。我が子は今丁度十一歳。現代を生きる我が子がこのような事になると生きてはいけるのだろうか...。考えるだけで胸がしめつけられる思いです。体験談では写真だけでは見えてはこない事実を聞く事ができ戦争がどれだけ悲惨な物か、そしてこのような事は二度と起こしてはいけないと今一度強く思いました。

今回親子で参加して戦争がもたらせた被害の大きさ、目には見えない物まである事、その見えない物がまだずっと残り人に甚大な影響を残しているという事実を学ぶ事が出来ました。(保護者)

昨今、ニュース等でよく目にする防衛費増額やロシア・ウクライナ戦争といった問題が有る中でいかに平和が幸せで大事な事なのか良く分かった旅行となりました。

初日に見た原爆ドーム、今までは教科書等の写真しか見た事が無かった為本物を見た時言葉が出てきませんでした。つづいて見た原爆の子の像、そこにたくさんの千羽鶴が吊るされていました。十二歳、我が子と同年代の若さで被爆しその影響で白血病を患い亡くなった佐々木禎子さんが鶴を千羽折れば病気が治ると聞き、薬の包み紙などで鶴を折り続けた事を知りました。どれだけ痛かったか苦しかったか、どれほど必死に鶴を折り焼けたのか、想像し切れませんが想像しただけで胸が苦しくなり涙が出ました。その後に原爆資料館の中で見た熱で溶け曲がった鉄骨、焼け溶けた陶器やビン、被爆

した三輪車、焼け破れた衣類や持ち物、人影が残った石階段、大火傷で皮膚がただれた被爆者の写真、山のように積み上げられた遺骨の写真、見た物全てが想像を絶する物で頭からはなれません。資料館を出たすぐ近くに被爆したアオギリが植わっていました。この樹木は爆心地から 1.3km の所に植わっていた為熱線と爆風を受け、枝葉は全て無くなり幹は半分焼けてえぐられていたが、翌年の春に芽吹いたと説明書きが有りました。当時、どれほど被爆者のみなさまの希望になった事だろうと思いました。そしてまたそのすぐ近くに被爆遺構展示館が有り、中に入り見学しました。係の人からこの平和記念公園の土地全体で地面から約 60cm 程下に民家の基礎や土台や瓦、道路等が埋まっていると説明を受けました。そんな事を一切想像できずに何も考えられずに歩いていた事を被爆された方々、亡くなられた方々に申し訳なく心苦しく思いました。そして翌日、被爆を経験された方の当時のお話を聞かせて頂きました。原爆爆発時、落下中心地付近では熱線が約三千から四千度であった事。その後の黒い雨、大火傷や熱さで水を欲して川に飛び込み息絶えていった人々や大火傷を負っていても病院で診てもらえず亡くなっていく人々の話。薬が足りず傷口からウジがわいてくるお話等、被爆した苦しみや恐怖で思い出したくもないだろうお話を聞かせて頂きました。この貴重なお話を聞かせて頂いた事を感謝すると共に、今後このような悲惨な事が二度と起きないように願い考え我が子と話をしたいこうと思います。

早くウクライナ・ロシアの戦争が終わり、平和な世界になる事を心から願います。

この度、このバスツアーを企画して下さい加古川市のみなさま、神姫バスのみなさまありがとうございました。（保護者）

この度、広島平和の親子バスツアーに家族で参加できてよかったと思います。

学習を兼ねてバスツアーをする機会がなかなかないということと平和について考えたり、感じたりする経験を親子で共有できたことは本当に良かったです。

私自身、今回バスツアーに参加して修学旅行で長崎に行った時に目にした資料館の記憶が甦り、広島も同じような光景を想像していましたし広島原爆の資料や映像、本などで目にしてきたので理解していたつもりでしたが実際足を踏み入れてみると想像をはるかに超えるものでした。被爆した三輪車、破れた服や持ち物、人影だけが残った石階段。大ヤケドで皮膚がただれている写真、沢山の遺骨。実際に見るととても恐ろしくなり、こんなことが 78 年前に本当に日本で起こったことなんだと思うとあまりにもひどすぎるし可哀想すぎると改めて思いました。

被爆者の方の貴重な話も聞かせて頂く事ができ、生の声をきくと映像や資料でみるより現実味があり、当時 12 才で被爆されたと聞き自分の子供と年齢が変わらないと思えば子供が今同じ経験をしないといけない状況になったら自分には何ができていたんだろうと思います。原爆直後の黒い雨や水が欲しくて川に飛びこみそのまま命絶えていく…。大ヤケドを負っているのに病院にみてもらえない。痛い辛い思いをして数日後命消えていく。何のために生まれてきたのかと思ってしまいます。思い出すのも辛いと思うのに原爆の怖さ、被爆した苦悩と悲しみ、決してこのような悲劇を繰り返してはいけないと強く感じました。

これから自分にできることは何かと考えた時に、まずは自分のまわりにいる人たちに今回学んだこ

とや感じた事を話すこと、子供も今回沢山学んで感じたと思うので同じようにまわりの人たちに話してみることを一緒にやっていき、話してみてどうだったかをまた話し合っていくことができることを少しずつ増やせていけたらと思っています。

今回、市の取組みでツアーをして下さり参加できて本当によかったです。ありがとうございました。また機会がありましたら市民の方が一人でも多く参加でき色々学び感じ自分たちのできることから取組んでいけば加古川市の未来はもっと明るくなっていくのかなと思います。そうなる様、願っています。（保護者）

私にとって広島平和記念公園、資料館に行くのは小学生以来、約三十年振りでした。

今回このツアーに参加させてもらいたいと思ったのは、昔の私と同じように小学生の間に実際日本で行われた原爆投下によってどのような被害がでたのか、戦争の恐ろしさ、愚かさを生で体験させたかったのと、来年から中学生になり親と旅行するもの難しくなると思ったからです。

やはり生で戦争の悲惨さを感じる大切さを子供が資料館を見学している様子で実感しました。テレビで観たり教科書で習うのとはレベルが違う、自分達と同年代の当時の子供達が体験・生活を写真だったり実物のこげた服・建物を見ていくうちに顔色が変わっていました。大丈夫かと心配しましたが最後まで目をそらす事なくしっかり見学できた事はよかったです。

夏休みの週末ではありましたが平和資料館に入館するのに何十人もの行列ができていた事、そのほとんどが外国人であったのにとっても驚きました。次の日に語りべの方がおっしゃってられましたが、まずは広島で何があったのかを知って欲しい、そして学んだ事をまだ知らない人々に話して広めて欲しい。そして世界から核兵器がなくなって欲しいと。残念ながら世界中であれだけ大量の核兵器を所持している国があるこの時代になくするのは困難な事かもしれないけれど、核兵器の恐ろしさを知って保持・使用に反対の旗を上げる人が多くなる事はとても大切な事だし、一人一人の心がけ次第で世の中を変えていけたらいいなと思いました。

いつもの週末はグラウンドでサッカーばかりしている息子ですが、このような貴重な体験を親子でさせてもらえて本当によかったです。ありがとうございました。（保護者）

今回ツアーに参加させていただきましたが、平和記念資料館の訪問は中学校の修学旅行以来になりますので、大人になってどのように感じるのか、参加前から楽しみでした。

当日はバスの中で原爆にまつわるアニメを見た後で平和記念公園の見学となりました。アニメにも出てきた原爆の子の像は亡くなった小学生の方の同級生らによる募金で作られ、今も多くの千羽鶴が全国から寄せられるとのことで、人の善意と平和への思いを強く感じました。また、平和記念公園は市街地のそばにあるにも関わらず広く静かで清掃も行き届いており、広島の方々が平和の象徴として非常に大切にされていると感じました。

その後に訪れた平和記念資料館は、原爆の被害の甚大さ、悲惨さを様々な遺品や映像で伝えており、原爆は二度と使ってはいけないと強く感じました。また、当日は入場待ちが出るほど混雑していて、外国人の方も多く入場されており、核兵器の恐ろしさを世界に伝える重要な資料館と改めて理解しま

した。今年5月に開催された G7 サミット後、外国人の入場者数が増えているとの報道もあり、是非多くの方に核兵器の悲惨さを感じてほしいと思いました。

二日目は被爆体験の講話を聴かせていただきました。原爆の悲惨さを聴き、現在の平和のありがたさを感じました。高齢にも関わらず子供たちに原爆の悲惨さと平和の大切さを伝え続けておられる思いに感動しました。

今回のツアーに参加させていただき、戦争や核兵器の悲惨さを継承していき、一人一人が現在の平和のありがたさを感じる事が、戦争のない世界への第一歩と改めて強く感じました。（保護者）

私が初めて広島原爆資料館を訪れたのは、小学校5年生の時でした。今回一緒に参加した娘と同じ年の頃です。当時かよっていた塾の学習旅行で行きました。それまでに原爆や戦争について子供なりに勉強してほんの少しの知識はありました。ただただ戦争は怖いものだと、決してあってはいけない事だと思いました。資料館を訪れて更にその気持ちが強くなりました。当時は子供であまりの惨劇に資料館で気分が悪くなりました。本当に現実こんな事が自分の生まれた国でしかも、さほど昔ではない過去に起こった出来事だと思うと自分の気持ちに整理がつきませんでした。今回の旅行に参加する事になり当時のことを思い出していました。

それから大人になってなかなか機会がなく、今回資料館がリニューアルされてからはじめて行くことが出来ました。

やはり目をそむけたくくなるような原爆の怖ろしさに、子供の頃に感じたよりも改めて平和について考えることができました。人間は素晴らしいものや、美しいものを作ることが出来るのにその反面、大変恐ろしい物を作ってしまう事が出来る、それも人間なのだと思います。

そして戦争体験をされた方々が御高齢となり戦争の実体験を直接聞く事がこれから困難になるなか、語りべの方のお話しも実際に聞く事ができ大変貴重な時間となりました。語りべの方の「日本人もほかで酷い事をしているので、恨んでいない。」とおっしゃっておられた事がとても印象に残りました。自分ならそのようには考えられません。語りべの方のような方達の犠牲のうえに今の平和がある事を改めて実感しました。

誰もが平和を理解しこの日々がどれほどありがたいものか、今の平和な生活が当たり前ではない幸せな事だということを、そしてこれから生きていくうえで平和の尊さを忘れずにいようと改めて考える事ができました。（保護者）

娘2人と一緒に、このバスツアーに参加させて頂きました。まず、バスの中で2本のビデオを視聴しました。平和記念資料館に展示されている三輪車と、記念公園にある「原爆の子の像」についてのビデオでした。戦争に関するアニメやドラマなどを見ることは、最近とても少なく、もしかしたら、私の子ども達は見るのが初めてだったかもしれません。

そのビデオを視聴してから、平和記念公園や資料館に行ったので、より色々なことを感じたように思います。資料館では、戦争や原爆の怖ろしさ、悲惨さ、悲しさ、憤りを感じました。現実、もっともっと凄まじいもので私の想像などはるかに超える現実があったのかと思うと、とても怖くて、な

んともいえない想いが、心の中にずっと重く感じました。

翌日、語り部さんのお話を聴かせて頂きました。12歳の時被爆され、ご両親を亡くされたそうです。実際に体験された方の話は、とても重く、頭と心の中の芯のところに強く突き刺すような感じがありました。その光景を、目の前で見、両親のいない中で生き抜いて来られたことは、想像を絶するものであったと思います。戦争・原爆は、本当に非人道的で、人が人らしく生きていくことを奪い、人の心を殺してしまうもので、二度とあってはいけないものなんだと改めて思いました。語り部さんのお話を聴かせてもらう事ができて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。改めて、とても大切なお話をありがとうございましたとお伝えしたいです。今私達は、とても恵まれた生活をさせてもらっています。その根底にある一番大切なものは、やはり平和であることだと思います。世界中が平和で、核のない世界になって欲しい、今の世界情勢では、理想論なのかもしれませんが、心から願わずにはいられません。私達に出来ることは、まず戦争や原爆の恐ろしさを知ることだと思います。風化させることなく、伝えていく事がとても大切な事なのではないかと思っています。

今、学校の授業でも、子ども達に聞くと、戦時中の事や原爆の事はじっくり勉強していないような印象でした。私の娘も、今回このバスツアーに参加して、実際に資料館を見て、語り部さんのお話を聴かせて頂いて、感じた事、知った事がいっぱいあった様に思います。この様な機会を、学校でも与えてやって欲しいと思います。平和について、しっかり学ぶ機会が必要だと思います。私は、子ども達と一緒にこのツアーに参加してもらい本当に良かったと思いました。一緒に見て考えて、次は子ども達が親になった時に、子どもに伝えていって欲しいと思います。戦争、原爆の悲惨さを誤魔かすことなく、現実を伝えていく事が、平和に繋がっていくと思っています。この様な機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。このツアーは、今後もずっと続けていって欲しいと思います。

(保護者)

子どもの頃から日本の歴史として、第二次世界大戦を主とする戦争の悲惨さを学習してきましたが、この度、平和学習として初めて広島を訪れることになりました。

十分に心がまえをもって参加しましたが、現地には想像をうわまわる戦争の記録がありました。広島平和記念資料館には原爆の被害による多くの遺品や写真、当時の様子を絵にしたものがあり、会場は大勢の人でごった返していましたが、とても静かな空間でした。60年以上も前のことだけれども、昔話ではなく、今ある危機として感じられ、大きなショックを受けました。語り部の笠岡さんにご自身の被爆体験をお聞きした時も、戦時下の過酷な惨劇に涙がでてきました。二度と繰り返すことがないよう、一人ひとりが意識して平和をつないでいく事が大切だと思いました。とてもつらい体験を戦争を知らない世代に伝えて下さっている語り部のみなさんには、大変感謝しています。穏やかに暮らせるよう、何事にもかえがたいこの平和を守っていかなければならないと思います。

最後に、こんな貴重な経験をさせて下さった加古川市に感謝致します。ありがとうございました。

(保護者)

何も知らず、生きていきたくないと思いました。知らなかったことが多すぎて、でも、知れてよかったです。これからの生き方が変わるとし、変えないといけないと思いました。

最も心に残ったのは、語り部の方のお話です。実際に経験したことを語り継いでくださっていることに心が大きく動かされました。

資料館で学んだことで、よりいっそう、「なんとか戦争をとめられなかったのか。」と、怒りや悲しみがわきおこってきました。親や友だち、大切な人々を無惨に殺されたことや、日本軍が他国でしてきた過ち、知ることが許されない時代をつくってきた国のあり方等、いろんな出来事が心の中をぐちゃぐちゃにし、とても苦しかったです。

親子で広島で学んだことで、これからも折にふれて話し合うことができます。

貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。（保護者）

私が広島平和記念公園を訪れたのは四十年前の小学生の時以来で原爆ドームは以前とは姿が変わり、保存の為の修理や補強が多くされていて年月を感じました。新しくなった平和記念資料館も以前とは変わり、遺品や当時の背景の説明にその日の状況に思いを馳せずには居られない内容でした。一つの爆弾で半径二キロ前後が消失した事は改めて想像を絶します。その日から現在に至るまで被爆された方や家族、遺族はずっと苦しみや悲しみを抱えてきていると笠岡貞江さんの講話でどれだけ核兵器が悲惨で平和が尊いものなのか聞かせて頂き体験談、遺品、遺物を伝え、後世に残し行動する事が世界の未来の為、若い人の将来に繋がるのだと教えて頂きました。

二日間で親子共々、時代背景から兵器製造や戦争に従事した様々な立場の方の視点から学び直す事ができました。これからは自分達でできる事が何か考え話し合う、とても良い機会となりました。特に参加された子供達には貴重な経験となったと思います。

今回のツアーは出発から帰りまでとても満足でき、素晴らしい企画だったと思いますので是非、季節問わず継続して頂きたいです。

最後になりますが二日間、親切にご対応して下さいました加古川市のご担当者様、神姫バス様、貴重なお話を聞かせて下さった笠岡貞江様に深く感謝し、御礼を申し上げます。有難うございました。

（保護者）

このツアーで私が一番心に留めておきたい事を書きたいと思います。それは被爆体験講話での笠岡貞江さんのお話を聴かせていただいたことです。笠岡さんは爆心地から三・五キロメートルのところで被爆され家族を亡くされました。お父さんが全身やけどを負い苦しむ様子や多くの人が助けを求めてさまよい歩き、川に入って水を飲んで息絶えたりとさながら地獄絵のようだったそうです。

淡々と語られる被爆後の広島風景、そこには「何の感情もない心のない自分」が居たと語っておられました。戦争とは心がない人間を作ってしまうという事実。そして昨日まであたり前であった大切な生活を奪ってしまうという恐怖。笠岡さんは、戦争に対する思いの変化についてこう話されました。「最初は、ピカドンを落としたアメリカを憎みました。でも日本にも悪いところはあったと考えるようになりました。そして今は、原爆を戦争を憎むようになった」と。復興に協力したアメリカ人

がいたことにもふれて感謝の気持ちもあるとおっしゃってました。

何年たっても忘れることの出来ない記憶の中で今もこうした思いを持ちながら生活をされている笠岡さんの言葉のひとつひとつが、戦争のおろかさや人間の業の深さについて改めて考えさせるきっかけとなりました。

子供に平和とは、戦争とは何か、そして原爆のことをよく知ってほしいと参加したツアーでしたが、私自身がもう一度知りこれから自分がどう生きていくべきかという指針を与えてもらった旅となりました。今後もこのツアーが引き続き行われ一人でも多くの人に参加してほしいと思います。

(保護者)

初めて親子バスツアーに参加しました。

今まで広島には一度だけ訪れたことがあり、子供を連れていったのは初めてでした。

その理由は、戦争の写真や原爆ドームなどは子供には衝撃的でありよくないかなと思っていましたからです。今回、子供も中学生になり、戦争に興味を持ちだしたので参加しました。

平和記念公園に到着して、一番最初に目に入ってきたのが原爆ドームでした。少し遠目でしたが、何とも言えない雰囲気がありました。教科書で見るよりも小さいなと思いました。平和記念資料館に入館して人混みがすごくて、ゆっくり観覧したかったのですが、流れるように見ていきました。それでも気になる写真や展示物は一旦立ち止まり無になったりもしました。

戦争の残酷さ、悲惨さは写真や展示物だけでも伝わってきました。時折、鳥肌もたったりしました。

夕方にホテルにチェックインし、ゆっくりと休ませていただきました。

2日目は、資料館でかたりべさんによる講話があり、原爆体験談を聞かせていただきました。とてもとても悲しい体験談でした。

今生きていらっしゃるのが不思議なくらい原爆とは悲惨なことだったと感じました。良いお話が開けてよかったです。

呉市の大和ミュージアム見学をしました。戦争は、陸軍、空軍、海軍とあり、戦艦ヤマトは有名でしたので一度訪れて見たかった場所でした。大きな戦艦の模型と戦闘機、特攻の歩みなど、いろいろと勉強になりました。

今回参加したことで、戦争についてたくさん学べ、親子でよい体験になりました。

毎年、加古川市の平和の折り鶴を折って公民館などに持っていっています。これからも毎年続けていきたいと思います。(保護者)

今回は二回目の参加になります。今年広島で G7 広島サミットが開催されたため、子どもと一緒に、いま一度平和について学びたいと思い、応募させていただきました。

前回の参加は、コロナ前最後のバスツアーだったので、まだ数年しか経っておらず、同じコースを回っていますが、映像ではない原爆ドームやその周辺の景色や、広島平和記念資料館の見学では、胸が苦しくなり、目をそむけたくなるばかりでした。今回は、爆心地と、G7 広島サミット回想展の見学もできました。戦争の悲惨さを、ありのまま残して伝えているものを見る私達は、それをしっかり

受け止め、戦争のない、核兵器のない世界を目指し続けなければならないと感じました。戦争で傷つき、苦しみ、人生が変わってしまうのは、戦争をしたい人ではなく、平和に暮らしている国民です。だから今回広島でサミットが開かれ、世界の首脳が、核兵器の犠牲になった国民の姿を見たこと、それを世界中が注目したここから、平和の大切さが世界中に広まってほしいと思いました。

二日目の被爆体験講話では、写真や資料を使い、とてもわかりやすく説明いただき、原爆の恐ろしさ、傷ついても手当を受けられない家族に付き添う家族の辛さを、ひしひしと感じました。語部の方が、今日話を帰ったら周囲の人にしてほしい、知ってもらうことが大事、と言われていたことが印象的でした。戦争を知らない世代がどんどん増える中、語部の方に出会い、お話を聞かせていただいたことは、せめて家族の中では、受け継いでいきたいと思います。

大和ミュージアムでは、子どものパンフレットがクイズ形式になっていたのも、見るだけでなく、考えながら見学できて、よかったです。

今回の旅行、参加できて良かったです。お世話くださった関係者の皆様ありがとうございました。

(保護者)

普段から仕事が不規則な主人とコロナ禍に小学校へ入学、そして弟ができた息子にとっては父と2人で旅行へ行くことがとても嬉しそうでした。

自粛モードが緩和し元通りの日常に戻りつつありますが、子供にとって色々な事を知り、色々な人と出会い、経験や思い出を作っていく貴重な時間に何も出来ないこと、何もしてあげられないことを不憫に思っていました。

そんな思いを持ったまま日常を送る中、学校から持って帰ってきた「広島平和の親子バスツアー」のプリント。

「戦争を知らない息子はどう感じるのだろう。どう思うんだろう。」そんな感情を主人に話すと「息子と行こうかな。2人で旅行なんてこれから先、行けるか分からへんし！」忙しいはずなのにそう言ってくれた主人に私まで嬉しくなりました。

当日、私は次弟とお留守番だったので2人が色々な思いを持ち、無事帰ってくることを祈りながら見送りました。

使い慣れていないキッズフォンからたくさん写真が送られてきました。

原爆ドームや原爆の子の像…。私自身も実物を見たことがなく、原爆の子の像について家で調べました。

高さ9mの巨大なモニュメントの頂上に立つ佐々木禎子さんをモデルに作られた像。

佐々木さんが2歳の時に被爆し、6年生で突然白血病を発症。12歳でこの世を去った彼女が「生きたい」と願いながら千羽の鶴を折ったこと。

10歳になったばかりの息子を重ねながら、そして息子はどう感じたのだろうと胸が苦しくなりました。

そして、父と息子が初めて2人で過ごす旅行でご飯を食べたり、ホテルの風景をバックに撮った写真を見ていると親子で色々な体験をするっていいなと思いました。

帰宅した2人に「おかえり」を言い、色々な思いを伝えたそうにしている息子と主人で旅行の話をしました。

語り部のおばあさんからお兄さんと一緒に仕事へ行ったお父さんを探しに行った話。

資料館で溶けた三輪車やお弁当箱を見た話。

やけどした人達が川へ飛び込み、川から上がろうとして皮膚がめくれてしまう話。

親である私達ですら想像することしか出来ないこと。きっと想像を遥かに超える悲惨な状況だったのだろうと思う。

「僕やったら生きられなかったかもしれない。」という息子にも現代で生きていることの幸せを少しでも感じてもらえてたら嬉しいです。

そして主人から外国人の多さにびっくりしたと聞きました。

「されただけじゃない。」と語り部さんが言っていたのにグッときたと。

争い合う相手だった外国の人達が足を運んでいる。

他国といがみ合いのない平和な日本がこれからも続いてくれたらいいのにと思いました。

何気ない日常を大切に

家族と協力しながら毎日を楽しく幸せにこれからも生きたいと思いました。（保護者）

平和宣言

78年前の原爆投下の日を、まるで生き地獄のようだったと振り返る当時8歳の被爆者は、「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。あの日、熱線で灼かれ、瞬時に失われた命、誰からも看取られず、やけどや放射能症で苦しみながら失われていった命。こうして失われた数え切れない多数の人々の命の重さを、この地で感じてもらいたい。」と訴えています。

本年5月のG7広島サミットで各国首脳が平和記念資料館の視察や被爆者との対話を経て記帳された芳名録は、こうした被爆者の願いが各国首脳の心に届いていることの証しになると思います。また、慰霊碑を参拝された各国首脳に私から直接お伝えした碑文に込められた思い、すなわち、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和を祈念する「ヒロシマの心」は、皆さんの心に深く刻まれているものと思います。こうした中、G7で初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書としてまとめられ、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認されました。それとともに、各国は、核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立てるべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示されました。

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取組を早急に始める必要があるのではないのでしょうか。市民社会においては、一人一人が、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」というメッセージに込められた人類愛や寛容の精神を共有するとともに、個人の尊厳や安全が損なわれない平和な世界の実現に向け、為政者に核抑止論から脱却を促すことがますます重要になっています。

かつて祖国インドの独立を達成するための活動において非暴力を貫いたガンジーは、「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」との言葉を残しています。また、国連総会では、平和に焦点を当てた国連文書として「平和の文化に関する行動計画」が採択されています。今、起こっている戦争を一刻も早く終結させるためには、世界中の為政者が、こうした言葉や行動計画を踏まえて行動するとともに、私たちもそれに呼応して立ち上がる必要があります。

そのため、例えば、私たちが日常生活の中で言葉や国籍、信条や性別を超えて感動を分かち合える音楽や美術、スポーツなどに接し、あるいは参加して「夢や希望がある」といった気持ちになれるような社会環境を整えることが重要となります。皆さん、そうした社会環境を整えるために、世界中に「平和文化」を根付かせる取組を広めていきましょう。そうすれば、市民の支持を必要とする為政者は、必ずや市民と共に平和な世界に向けて行動するようになることを確信しています。

広島市は、世界166か国・地域の8,200を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民レベルでの交流を通して「平和文化」を世界中に広めます。そして、平和を願う私たちの総意が為政者の心に届き、武力によらず平和を維持する国際社会が実現する環境を作ることを目指しています。また、被爆者の平和への思いを世界中の若者に知ってもらい、国境を越えて広め、次世代に引き継げるようにするために、被爆の実相に関する本市の取組をさらに拡充していきます。

各国の為政者には、G7広島サミットに訪れた各国首脳に続き、広島を訪れ、平和への思いを発信していただきたい。その上で、市民社会が求める理想の実現に向け、核による威嚇を直ちに停止し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けて一步を踏み出すことを強く求めます。

日本政府には、被爆者を始めとする平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、核保有国と非核保有国との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただきたい。そして、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となり、核兵器廃絶に向けた議論の共通基盤の形成に尽力するために、まずは本年11月に開催される第2回締約国会議にオブザーバー参加していただきたい。また、平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆78周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和5年(2023年)8月6日

広島市長 松井 一實

核兵器廃絶都市宣言

(昭和57年3月29日議決)

加古川市は、「82年・平和のためのヒロシマ行動」で採択された「ヒロシマ・アピール」に賛同し、世界の恒久平和を願い、武力国家の対立を解消して、英知と友愛に基づく新しい秩序の実現を希求する。

いま、世界に核戦争の危機を感じ、これを憂う人が広がりつつある。我が国は人類最初の原爆被災国として、核戦争が人類を破滅させ得るものであることを身をもって証明した。

私たちは、人類が再び同じ過ちを繰り返さないよう核戦争の防止を求め、核兵器廃絶を強く訴える。地球上に、平和も愛もいのちも、また美しい山河を絶やさないために、加古川市を「核兵器廃絶都市」とすることを宣言し、他の宣言都市と相携えて世論を喚起し、核兵器廃絶を誓う市民の輪が我が国に、そして世界に広がることを期するものである。



広島平和の親子バスツアー感想文集
令和5年10月

加古川市 総務部 総務課
〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000
TEL 079-421-2000 (代表)